

2014 年度文化庁委託事業報告書

被災地の小中学校における方言教育実践の構築
— 地域方言の継承に向けて —

2015 年 3 月

福 島 大 学

人間発達文化学類 国語学研究室



《 目 次 》

■事業概要 1
■方言授業実践の記録 3
■福島県内被災地方言談話資料 39
富岡町	
相馬市	

事業概要

1.事業の目的

本事業は以下の2点を目的とする。

- (1) 福島県浜通りおよび北部阿武隈高地地域の方言談話資料収集
- (2) (1)の資料を活用した小中学校の授業実践構築および教材開発

福島県浜通り地方および北部阿武隈高地地域では、東日本大震災の津波被害に加え、東京電力原子力発電所事故の影響もあって現在もなお多数の住民が避難生活を強いられている。今後長年にわたって避難指示が継続される地域も多く存在し、自治体、地域のコミュニティ崩壊が危ぶまれる中で、当該方言についてもその衰退・消滅が懸念されている。

こうした状況下、福島大学では文化庁の委託事業として被災地域の方言談話資料収集のための調査を実施してきたが、広域の県内被災地方言すべてについて十分なデータを採録するには至っておらず、なお調査の継続が必要である(目的(1))。

また方言継承に向けても方言データの電子化、Web公開などの各種作業を行ってきたが「地域の中での生きた方言の継承」という観点から見た場合、その効果は不十分なものと言わざるを得ず、将来各地域を担う年少者への方言継承、教育活動が不可欠であることを痛感している。

現在、双葉郡8町村が行っている復興教育カリキュラム「ふるさと創造学」構築作業との協同も視野に入れながら、方言データにもとづく教材開発や、被災地の学校での(可能な範囲での)授業実践など、被災地の方言継承につながる小中学校の教育活動にコミットする(目的(2))。避難高年層の中には喪失感を強く感じている方も多く、こうした方々をも巻き込んだ児童生徒の方言学習が展開できれば、被災地高年層への精神的な支援にも結びつくものとなりうる。

2.事業の実施体制

本事業の実施体制は以下の通りである。

責任者

- 半沢康(福島大学人間発達文化学類・教授)
・全体の統括。談話収集調査。談話資料分析。

分担者

- 中川祐治(福島大学人間発達文化学類・准教授)
・調査協力。方言文法事象の分析助言。

協力者

- 小林初夫(浪江町立幾世橋小学校および福島市立岡山小学校教諭[兼任])
・談話収集調査。方言談話資料を活用した教材開発と授業実践の構築。

3.業務実施報告

- (1)被災地方言の談話資料収集

昨年度までの委託事業に引き続き、県内被災地方言の自然談話資料収集を実施した。方言継承の点でも、また(2)教材開発のためにも被災地各地の方言の全体像(音韻、文法、語彙、アクセント、イントネーション)を精緻に把握することが不可欠である。これまでのデータに加え、さらなる談話資料の蓄積を図った。

避難生活を送る高年層の方々に方言でふるさとのお話をしていただくことは「傾聴支援」につながり、高年層の方々の励みともなりうる。方言の異なる県外(とりわけ東北とは方言の異なる地域)へ避難された方ほどふるさとや方言を懐かしみ、心置きなく方言を話したいという思いを強く感じており、今年度はこうした県外避難の方々をも対象として調査を行った。遠方へ避難しているの方々に方言でお話しをしていただく機会を設けることで、単なる方言収集にとどまらず、被災された方々の支援にもつながるよう努めた。

(2)被災地方言資料を活用した小中学校の授業実践構築および教材開発

(1)の作業と並行して方言教材開発、授業実践構築について作業を進めた。児童生徒の関心を惹く教材の工夫や、具体的な学習活動の授業案を検討し、協力者の勤務校において実際に方言学習の授業を行なった。

方言授業実践の記録

以下には、福島市内で実施した方言授業の実践記録を掲載する。

震災直後の混乱も一定落ち着き、被災自治体では地域文化の保護、継承に向けた取り組みが見られるようになった。地域アイデンティティを維持するための縁として、地域文化に関する活動や教育の必要性が高まっているものと考えられる。例えば双葉郡の 8 町村では「福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」を組織し、子供たちが自らのふるさとについて学ぶ「ふるさと創造学」という授業を構想している。

この「ふるさと創造学」の中に位置づけうる「地域方言を学ぶ授業」を構築する第一歩として、本事業では協力者の現勤務校である岡山小学校において地域方言を扱った国語の授業実践を試みた。

協力者の小林初夫氏は自身が被災地である南相馬市小高区出身・在住である。現在は福島市に避難しており、浪江町と福島市のふたつの小学校教諭を兼務しながら教育活動と避難児童のケアにあたっている。一方で方言研究についても多数の業績があり、今回の震災で県内外への避難を余儀なくされた児童生徒を対象に、方言に関する意識調査も実施している。

いまだ休校中の学校もあるなど、地域方言を題材とした授業を被災自治体の小中学校で実施することには現時点ではいささかの困難を伴う。そこで、まずは震災の被害が比較的軽微であった福島市において、プロトタイプとなりうる授業を行ったものである。今後は本授業を手掛かりとしながら、さらに被災自治体の小中学校における方言授業の実施方法を検討していくこととしたい。

【授業計画】

6年国語 ふるさとのことばを学ぼう「福島の方言」

1.ねらい 福島の方言に興味を持ち、意欲的に方言について調べたり、使ったりすることを通して、日本語の表現の豊かさに気づくことができる。

2.日時 第1回目 平成27年2月9日(月)6年2組(4校時)

平成27年2月10日(火)6年3組(2校時)・6年1組(4校時)

第2回目平成27年2月17日(火)合同(3・4校時)

3.場所 第1回目(45分)各教室(下記「7.内容」の1~3を実施)

第2回目(90分)音楽室(下記「7.内容」の4~7を実施)

4.対象 6年児童 73名

5.授業者 小林初夫(岡山小教諭)

6.ゲストティーチャー(第2回目)

福島民話茶屋の会 清野吉巳様

福島民話茶屋の会 渡邊慶子様

福島大学教授 半沢 康

7.内容

	テーマ	学習内容	担当
1	方言って何だろう	方言について考える。	小林
2	日本の方言を知ろう	言語地図でいくつかの方言の分布を見る。	小林
3	方言を調べてみよう	方言の調査方法を学ぶ。	小林
4	調べた方言を発表しよう	調査してきた方言を発表する。	小林
5	福島の方言を知ろう	福島の方言の特徴・分布について学ぶ。	半沢
6	方言を聞こう、話そう	実際に方言を聞いたり、話したりする。	清野・渡邊
7	まとめ	学習したことをふり返る。	半沢・小林

8.準備物

○プリント2枚(「方言ってなんだろう?」「言語地図」)

○方言調査票

○方言指導掛図

○フリップ(絵カード)

○テレビ

○パソコン

【授業略案】

6年国語 ふるさとのことばを学ぼう「福島県の方言」

講師 福島民話茶屋の会 清野吉巳様
 福島民話茶屋の会 渡邊慶子様
 福島大学教授 半沢康先生
 本校教諭 小林初夫

ねらい 福島の方言に興味を持ち、意欲的に方言について調べたり、使ったりすることを通して、日本語の表現の豊かさに気づくことができる。

学習活動	時間	指導上の留意点
1 ふるさとのことばって何だろう (1)方言って何だろう	25	○方言の基礎知識を解説する。
(2)方言の調べ方	20	○方言の調査方法を説明する
2 ふるさとのことばに親しもう (1)調べたことを発表しよう	20	○各グループごとに発表させる。
(2)福島の昔話を聞こう	10	○福島の昔ばなし(方言)を聞かせる。
(3)福島の方言を知ろう	20	○福島方言の特徴について説明する。
(4)方言を聞こう，話そう	30	○絵カードを使い方言をクイズ形式で出題する。 ○方言(単語・文)を聞かせる。 ○方言(単語・文)を話させる。 ○方言会話を聞かせる。 ○方言会話をさせる。
(5)感想発表	5	○各学級2人(計6人)に発表させる。
(6)まとめ	5	○講評をする。

第1回目(各教室)の授業の様子



第2回目(合同)の授業記録

—始 業—

由美子先生：では、みなさん、気をつけ。今日これから3～4校時は国語の方言のお勉強をします。みなさんのために福島大学の半沢先生、あとは、地元の清野さん、渡邊さんが来てくださいました。一生懸命お勉強してください。はい、じゃあ。

児童：よい姿勢になってください。

一 同：はい。

児童：これから方言の学習を始めます。よろしくお願いします。

一 同：よろしくお願いします。

小林：それでは、今日はずっと違った雰囲気、音楽室でのお勉強なんですけれども、今日はここで2時間、国語の方言の勉強をしたいと思います。由美子先生からお話があったように、今日はみなさんのためにお客さま、ゲストティーチャーをお招きしておりますのでご紹介いたします。まず、地元の、学校のすぐ近くにお住まいの清野さんです。清野さん、お願いします。

清野さん：清野です。

一 同：よろしくお願いします。

小林：清野吉巳さんです。幼稚園のころに畑とかでお世話になって知っている方も多いんですが、清野さんのこと知ってる方、どのくらいいますか。……はい、ありがとうございます。

同じく、岡山小の学区の方で、この地元の渡邊慶子さんです。

渡邊さん：渡邊慶子です。よろしくお願いいたします。

一 同：よろしくお願いします。

小林：それから、福島大学の国語の先生で半沢康先生です。

半 沢：福島大学で方言の研究をしています半沢です。よろしくお願いします。

一 同：よろしくお願いします。

—(1)調べたことを発表しよう—

小林：ということで、今日は方言の勉強をしっかりとやりたいと思います。前の時間に、みなさんと方言のことについて少し勉強しました。覚えてますか。

一 同：はい。

小林：覚えてますか。そのときはクラスごとに勉強しましたね。で、みなさんに地図を見せたんですけれども、その地図のことも覚えてるでしょうか。

一 同：はい。

小林：これ、日本地図に方言の分布が書いてあって、どこでどんな言葉が使われているかなとい

うのを、この地図を見ればすぐわかるというふうな話をしました。言語地図とか方言地図というんですけれども、これはね、このあいだ見せなかったページなんですけれども、「つくえ」の「く」というところや「かた」の「た」のところをどういうふうに言うかですね。みなさん、「つくえ」はなんて言いますか。

一 同：つくえ。

小 林：ここは？

一 同：かた。



小 林：きれいに「つくえ」「かた」と、こう言ってますね。これ、少し点々と濁って「つぐえ」「かだ」というふうに言うんですけれども、そのように「つぐえ」「かだ」というふうにする地域は色のついているこの部分です。ここは何地方かな。

一 同：東北地方。

小 林：東北だね。そうすると、福島県もほぼすっぽり「つぐえ」「かだ」というふうになります。方言の特徴が表れているんですね。(地図を持ってくれた教師に対し)先生、ありがとうございました。あと、このあいだ、みんなに雷や稲妻の地図も見てもらいました。あんなふうに日本の国っていろんな言葉があるんですよね。で、みなさんにも、地元の言葉、ふるさとの言葉を調べてきてもらったので、今日はちょっと発表してもらいたいと思います。1人の人が全部発表するのはちょっと大変なので、なるべくたくさんの人に発表してもらいたいのので、そうですね、調べてきたその調査票の上から4つぐらいずつ発表してもらおうかな。それじゃ、まず最初に発表してくれる人、誰かいませんか。……積極的に手を挙げましょう。どうですか。……最初の上の「牛」から、「牛」「かわいい」「気味が悪い」「どうしよう」あたりまで、「おでこ」あたりまでかな、どうですか。……じゃ、お願いします。

児童：「牛」は「べこ」です。「べこ」で、「かわいい」は「めんこい」で、「気味が悪い」は「きみわり」で、「どうしよう」は「どうすっぺ」で、「おでこ」は「でな」です。

小林：おお、ありがとうございます。すばらしい。ちょっと違う言い方があったという人はいますか。……………はい。

児童：「気味が悪い」が「なじよすんぺ」です。あっ、「どうしよう」でした。「どうしよう」が「なじよすんぺ」。



小林：「なじよすんぺ」？

児童：「なじよすんぺ」。

小林：ありがとうございました。おもしろいですね。あとどうでしょうか。ちょっと違った人いるかな。

児童：「おでこ」が「なずき」。

小林：ほほう、「おでこ」が「なずき」ですか。へえ、おもしろいですね。あと、どうですか。だいたい出たかな。……………はい。ありがとうございました。それじゃね、その次、5つぐらい、誰かお願いします。

児童：「気味が悪い」が「うきわり」。

小林：「うきわり」、ほう。ありがとうございました。「うきわり」という言い方もあるんだそうです。どんなふうに使いが違うのか、また今度ゆっくり聞きますね。じゃ、今度ね、その次の「つらら」から誰か発表してもらいたいと思います。どうでしょうか。

児童：「つらら」は「たりひ」で、「兄」が「あんちゃん」で、「姉」が「ねえちゃん」で、「赤ちゃん」が「おどっこ」です。

小林：「子守り」も入れて。

児童：「子守り」が「もりっこ」です。

- 小林：ありがとうございました。なんか珍しい言葉が聞かれましたね。「つらら」が「たりひ」，そんな言葉ほかにも聞いてきた人いるかな。「たりひ」……聞いてきました？なんでしたか。
- 児童：「しがまっこ」。
- 小林：「しがまっこ」，ほう，また珍しい言い方がありますね。「つらら」もいろいろあるんですね。おもしろいですね。ありがとうございました。じゃ，その次，「うるさい」から誰かお願いします。
- 児童：「うるさい」が「やかましい」で，「驚く」が「たまげた」，「恥ずかしい」が「しょうし」，「乞食」が「ほいど」です。
- 小林：ありがとうございました。「乞食」が「ほいど」，これまた珍しい言葉ですね。なんかちょっと違うという人いました？今のところの中で，ほかに何かおもしろい言い方があった人はいませんか。
- 児童：「恥ずかしい」が「めぐせ」。
- 小林：「めぐせ」，ほう。「めぐせ」，そんな言い方もあるんですね。いろいろあるんだなあ。それじゃね，次のところからお願いします。「陰口」，悪口のところから。おっ，すぐ手が挙がったね。



- 児童：「陰口」が「ざんそ」で，「いやだ」が「やんだ」で，「とんぼ」が「あげす」で，「行こう」が「やべ」です。
- 小林：「大丈夫」も。
- 児童：「大丈夫」が「さすけね」です。
- 小林：いやあ，すごい。ねえ。「とんぼ」が「あげす」ですか。ほほう。それから「行こう」が「やべ」，そして「大丈夫」が「さすけね」。どうでしょうか，この「さすけね」は結構み

んな聞いたと思いますが、「さすけね」というふう聞いてきた人、どのくらいいますか。……たくさんいますね。はい、ありがとうございます。NHKの「八重の桜」でもいちばん最初に出てきた福島方言が「さすけね」だったんですね。ありがとうございます。じゃ、今度は「くもの巣」からいってみましょうかね。どなたか……

児 童：「くもの巣」が「くものえず」で、「ちょうちょ」はとぼして、「かまきり」は「えんぼむす」、「壊す」は「ぼっこす」、「とうもろこし」が「とうみぎ」です。

小 林：ありがとうございます。「くもの巣」は「くぼのえず」ですか。ほほう。こんな言葉聞いてきた人、どのくらいいますか。ほかにもいますか。……はい、ありがとうございます。すごいね。誰に聞いたのかな。

児 童：おばあちゃんです。

小 林：ありがとうございます。おばあちゃん、すごいね。「かまきり」もちよっとびっくりしました。「えんぼむす」ですか。すごい。「えんぼむす」だそうです。聞いてきた人いますか、「えんぼむす」という言い方。何か違う言い方、「かまきり」であった人……はい、何でしょうか。

児 童：「いぼいぼ虫」。

小 林：「いぼいぼ虫」、ほほう、「いぼいぼ虫」というそうです。なかなか「えんぼ」とか「いぼ」とか関係ありそうですね、なんかね。ありがとうございます。ほかに何かありました、「かまきり」で。どうですか。

児 童：「とうもろこし」のこと。

小 林：「とうもろこし」、何がありましたか。

児 童：はい。「とうもろこし」は「とうみぎ」です。

小 林：「とうみぎ」ね。「とうみぎ」って聞いてきた人、どれくらいいますか。……はい、ありがとうございます。結構たくさんいますね、ありがとうございます。じゃ、その次のところ、「壊す」は言ったんでしたっけか。「お風呂」からですね。どなたか「お風呂」からお願ひします。

児 童：「お風呂」が「すいしょ」で、「雷」が「らいさま」、「稲妻」が「かみなりさま」、「お手玉」は「おてだま」でした。

小 林：ありがとうございます。「お風呂」が「すいしょ」でしたか。「すいしょ」なんて聞いてきた人、どのくらいいますか。「すいしょ」……ははあ。「すいしょ」のほかに何かありますか。

児 童：えっと、「ゆどの」。

小 林：「ゆどの」、ほう、なんか立派そうな言葉ですね、「ゆどの」、ほほう。おばあちゃんかな、言ってくれたの。

児 童：おじいちゃんです。

小 林：おじいちゃんですか。ありがとうございます。ほかに、「とうもろこし」を「とうみぎ」というのがありましたけれども、「とうみぎ」と聞いてきた人はどのくらいいましたか。「とうみぎ」……ほかに何か「とうもろこし」のことありましたか。「とうみぎ」なんていうのはありましたか。どうですか。「みぎ」でしたか。じゃ、今度は「やけど」から、ど

なたかお願いします。まだ言ってない人、どんどん積極的に発表しましょう。「やけど」から。

児童：ええと、「やけど」は「かんかぢ」で、「なまけもの」が「たれかもの」,「転ぶ」は「ころぶ」で、「ていねい」が「まで」,「末っ子」が「ぼっち」です。

小林：ありがとうございました。お見事です。ね。「やけど」が「かんかぢ」,これ、聞いてきた人、どれくらいいますか。「かんかぢ」……………はい。「なまけ者」,今なんて言いましたっけ。

児童：「たれかもの」。

小林：「たれかもの」聞いてきた人いますか。「たれかもの」……………はい。ほかに何か「なまけもの」で「たれかもの」以外の言い方はありましたか。

児童：「でれすけ」。

小林：「でれすけ」。「でれすけ」ね,なるほど。

児童：はい。「くさしもの」です。

小林：「くさしもの」,ほほう。「くさしもの」を聞いてきた人はどれくらいいましたか。……………聞きましたか。ありがとうございます。「でれすけ」はどうですか,「でれすけ」……………はい,ありがとうございます。いいですね。「末っ子」「ぼっち」,これはどうでしょうか。聞いてきた人,「ぼっち」……………

児童：「ぼぢっこ」。

児童：「ぼっちこ」。

小林：「ぼぢっこ」「ぼっちこ」,ははあ,「ぼっちこ」「ぼじっこ」があったんだね。ありがとうございました。いや,なんか楽しくなってきましたね。「走る」から誰かお願いします。「走る」から,どうですか。

児童：「走る」は抜かして,「かけっこ」は「はしりっくら」,「つまみ食い」は「ぬすっくらい」,「いびき」は「はなぐら」,「かたぐるま」は「かだぐるま」,「大きい」は「でっかい」,「小さい」は「ちっちゃい」。

小林：ありがとうございました。へえ,「いびき」のこと「はなぐら」っていうんですか。「はなぐら」聞いた人,どのくらいいますか。……………ほほう。はい,ありがとうございました。今のところで何かほかに違う言葉があった人はいるかな。

児童：「かたぐるま」が「でんでんまっこ」。

小林：「でんでんまっこ」。はい,「でんでんまっこ」聞いた人……………おう,ありがとうございました。「でんでんまっこ」,すごい。

児童：はい。「大きい」が「ずない」です。

小林：「ずない」ね,「ずない」。ちょっと違う言い方はありましたか?

児童：「ずがい」

小林：「ずがい」。じゃあね,「ずがい」って聞いてきた人,「ずがい」……………ありがとうございました。ちょっと違うけど,なんか似てますね。今度,「もぐら」からいってみましょうか。「もぐら」から。……………どうですか。「もぐら」からどうですか。さあ,「もぐら」,誰かいませんか。

児童：「もぐら」が「むぐろ」で,「魚のうろこ」が「こげ」で,「まむし」が「まへび」で,「捨

てる」が「なげる」で、「太陽」が「おてんとさま」で、「まぶしい」が「まちぼい」で、「まゆ毛」が「こうのげ」で、「目」が……じゃ、「目」からほかの人。

小林：ありがとうございました。「もぐら」「むぐろ」どうですか。「むぐろ」って聞いてきた人……はい、ありがとうございます。ほか、「もぐら」は何かありました？それじゃね、「まゆ毛」「こうのげ」これ、聞いてきた人、どれくらいいますか……ほう、結構まだ使われている言葉なんですね。「こうのげ」のほか何かありましたか。……じゃ、「まぶしい」を「まちぼい」、聞いてきた人どれくらいいますか。……はい、ありがとうございました。「まちぼい」のほか何かあった人いますか。

児童：「くそへび」です。

小林：今、「まぶしい」のところですが、それはもしかして「まむし」でしょうか。「まむし」ね。

児童：「まじこい」です。

小林：「まじこい」、ありがとうございました。誰に聞きました？お母さんですか、「まじこい」、ありがとうございました。今の「くそへび」というのは「まむし」のことですね、へびのね。ありがとうございました。「まむし」で「くそへび」と聞いてきた人どれくらいいますか。……はい、ありがとうございました。いますね、やっぱり。じゃ、今度、その次からまた誰かお願いします。もうちょっとだ、頑張りましょう。途中でやめるつもりでしたが、楽しくなったので続けちゃいます、ここだけは。どうですか。この辺の男の子、どうですか。

児童：「うで」はわかんなくて、「おしり」は「げす」で、「かかと」は「あぐど」、「つば」は「したぎ」、「うんち」は「ばっこ」で、「きのう」はそのまま、「ちょうどよい」は「いやんばい」。

小林：はい、ありがとうございました。なかなかいいですね。「かかと」のこと「あぐど」と書いてありますね。「あぐど」と聞いてきた人……ありがとうございます。「あぐど」のほか何かありました？……「あくど」ね。あとは？それから、「つば」のことを「したぎ」とありましたが、「したぎ」と聞いてきた人どれくらいいました。……ありがとうございます。「したぎ」って聞きましたか。誰が言ってました？

児童：おばあちゃんと、おばあちゃんのお姉さんが。

小林：ありがとうございます。「つば」のことを「したぎ」のほか何かありました？

児童：えっと、「たんぺ」。

小林：「たんぺ」、聞いてきた人いるかな、「たんぺ」……ありがとうございます。「たんぺ」って聞いてきた。すごい。ありがとうね。さて、それじゃ、最後、残り全部いっちゃおうかな。誰かお願いします。

児童：「疲れた」が「こわい」で、「裏返し」が「かいちゃ」で、「少し」が「ちつとばっか」で、「泥はね」が「しっぱね」で、「持ち上げる」が「たんがぐ」です。

小林：ありがとうございました。「疲れた」が「こわい」。「疲れた」「こわい」を聞いてきた人……。「こわい」のほか何かありました？

児童：「つかっちゃ」。

小林：「つかっちゃ」ね。ありがとうございます。それから、「裏返し」が「かいちゃ」ですか。
「かいちゃ」って聞いてきた人……はい、ありがとうございます。「裏返し」はほかに何かありましたか？

児童：「ひっくりがえし」。

小林：「ひっくりがえし」、ありがとうございます。「泥はね」のことを「しっぱね」と言いましたけど、「しっぱね」と聞いてきた人どのくらいいますか……。ほかには何か「しっぱね」以外にありましたか？

児童：「すっぱね」。

小林：「すっぱね」、誰に聞きましたか。

児童：おばあちゃん。

小林：おばあちゃん、どこに住んでるのかな。

児童：国見町。

小林：はい、ありがとうございます。という言い方もあるそうです。いろいろありますね。ちょっと違うけど似てますよね。仲間ですよ。「持ち上げる」を「たんがく」と聞いてきた人……はい、ありがとうございます。そのほかにもたくさん、また白いところに書いてきた人いると思うのですが、ちょっと時間が限られているので、みなさんの調査票を集めて先生があとでじっくり見たいと思います。また教えてください。たいへんありがとうございました。わっ、なんかすごい、今、感動してます。感動で汗いっぱいになりました。すごいな。それじゃね、みんなが今調べてきてくれたいろんな方言、そういう方言がいろいろまざってる昔話にはそういう方言がたくさんあります。それで、今日はゲストティーチャーの渡邊さんと清野さんに、ちょっと昔話を、この地元のお話を聞かせていただきます。よろしく願いいたします。

—(2)福島の昔話を聞こう—

清野さん：こんにちは。顔はね、みんな、わたしのところ、みんなかえって知ってるほうで、幼稚園のほうは「清野さん」で呼んでいて、それから、保育園のほうは「吉巳さん」で呼んでもらってました。みんなと昔話、毎月一回ぐらいまでずっとお話をしてきたので、今日お話しするのも、あるいは一度聞いたこともあっかもかもしれませんが、みんな、方言、みんなと同じぐらいの年が昭和19年でした、わたし。それで、戦争の真っ盛り。B29が飛んでくる。そのとき小学校6年生でした。そのときに、学校の先生方は、「あのな、方言で話してはなんねど。おめ、おれ、なんつったら、おれ、はだっかんな」、それで、竹刀を持って先生が、みんなそういうやつを、「おれ、おめ、なんつったやつはぶんなぐる」なんつってね、休み時間も竹刀を持って回ってました。ほで、「きみ」「ぼく」で全部話せということだったんです。それで、おっかねえなと思ったんですがね。それで、なんでだっっていったら、その先生いわく、「兵隊に行ったら、みんな福島のズーズー弁はどこに行っても聞こえねがんな、聞いてくんがんな。ズーズー弁だっって笑われっから、絶対かだっってなんねぞ。兵隊に行っって、おれ、おめ、なんつったら、これはもう、スリッパでびんただがん

な。はだがつちゃぐねえやづは、ちゃんと、きみ、ぼく、と言え、そういうふうに教えられました。おっかねがったねえ。さて、今になったら、みんな、「方言は」ってね、そんなふうにして方言は大事だ、残していこうということでございます。

今日はね、文知摺観音さんのお話をしましょう。小倉百人一首に“みちのくの 忍ぶもちずり 誰ゆえに みだれ染めにし 我ならなくに”，これね、あとで、コピーとってきてありますからみんなにお渡しできると思います。その歌が小倉百人一首にあります。それで、文知摺観音さんが、この学校の前、ぶつかったところが文知摺観音さん。昔、ここらは田んぼが少ね一もんだがら、税金納めんのに、米で納めんのはじええがら、絹糸が、それから機で納めてもじええと。ほれで、蚕(けえご)さまは、もう、昔っから盛んで、その百人一首ができる130年ほどたってますが、それ以前から蚕さまが盛んだった。そのけえごさまから、まゆ、めえつつんだがね、めえをとって、そうして、そのめえがら糸(いど)とって、その糸で機織って、そうして、それを税金のかわりに納めたんだど。

そのめえがらとった糸、生糸、その糸、それから機を税金として納めても、なんぼじええ機でも、なんぼじええ糸でも、それがさっぱり、よーぐ値段とってくんに。みんなほがの機とおんなじ値段でしかとってくんがった。ほんではちっと色そえも染めてみたら高(たが)くとってくれんでねえが。そうして、色染めたんだど。

昔みでに、なんにもねえどぎだ。石の上さ、けえの葉っぱどが花を敷いで、そうして、織った機をその上にあげで、上がら、そうれ、足でもんだり、手でこすったり、石で軽ぐはだぐど、下のその葉っぱや花の色がにじみ出できて、そうして、その機を色染めたんだど。青い色がら、赤(あが)い色がら、それはうつつぐしい色ん染まったんだど。それを税金のかわりに納めたらなんぼが高くとってくっちゃんだべなあ。

そうして、それ、京の都に持ってったら、「いやあ、珍しもんだな。これはじええ。なにんすっぺな。ほだほだ、これは男(おどご)の狩衣がじええんでねえが。ほんでは仕立てでみっぺ」そうして、その文知摺から出た機を狩衣に仕立てて着たんだど。

「どうだ、これ、この狩衣は」「わあ、色がいいもんだなあ。ほれにしても、その文様はなんだや」「なんだべなあ」「うーん。おめ、なにに見える?」「むちゃくちゃだけんともな、それにしてもじええ色だ」「ほだな。もじゃぐって、あれはな、文字のようでもあるしな、その筋っぼがずっとあるわな。んだ、もじずりだな、ほれは」、そうして、その絹はもちずり絹っていう名前つけらっちゃんだど。



清野吉巳さん

さあ、そのもちずり絹を着てとな、男っぷりが上がる。そうして、その恋の歌を、きれいな国のお姫さまに、その着物のそで口をちょっと折って、そうして、それを手紙にして、自分の恋する娘さん、お姫さまに、それを差し上げる手紙のかわりだったんだと。

そうしたら、もらったほうも、わざわざ着ている着物のすそを、そで口を折って、そうして切り取って、わざわざこうして手紙を書いてくれた。それはもう本当の恋だなと思っ
て、そのお姫さまだち、みんなその男の人だちになびくもんだから、それで、歌の文句が
たいへん出た。歌枕つつって、短歌を書く場合に、いろいろその種にする、その歌枕に、
「しのぶもちずり」っていう題ができて、歌がいっぱいつくったんだと。

その歌つくったのが源融(みなもとのとおる)がよーくつくった。それで、その源融の歌が
今残ってる、今話したその歌なの。

それで、その源融が、どんなところでこんなきれいな絹ができたんだべ、それで、この
もちずりの里までこらったんだど。さあ、京の都からこらったんだ。いやあ、長いあい
だ、しかも家来も連れて、そのころは山ぞくも追いはぎもいたんだべ。ようやくたどり着
いたもんだがら、そごの村の庄屋さん、そだに遠いどごのお客さまだ、ほんでは大事にも
でなさなはんね。そうして、その源融の相手役に、自分の娘、虎(とら)女を世話役につけた

んだと。

ところが、その虎女、大変な美人だったんだと。それで、その源融、その虎女に恋しちゃまって、ほうして、いつも、朝に起きては、「虎女、虎女」と呼んで、そうしてそばに置いたもんだから、虎女のほうも、「融さん、融さん」って、まあ、声もらしたのかな。そうして、とうとう二人は夫婦の仲になってしまったんだと。

ところが、そうしてどのぐらいいたのか、庄屋さんは、「旅の疲れとれるまでいてくなんしょない」、そうしていたんだと思うが、そうしているうちに、京の都から、「源融、いろいろ用事があるから、早く京の都に帰ってこい」と便りが来たんだと。源融は、「本当はおまえんとこ、都に連れて、お嫁として連れていきえてが、まあだ親の承諾もなんにも得てねえから、玉の輿で迎えにくっから、それまでがまんしててくれろな」、そう語って、涙両方流しながら、泣き泣き源融は京の都に帰っていったんだと。

ところが、帰ってった源融、忙しかったのか、半月たっても、三か月たっても、半年たっても、なんの便りもねがったんだと。虎女はがっかりして、「もう、おれは捨てらっちゃんだべがハ、おれ、本当に恋してんのに」。そうして、ご飯も食べなくなっちゃんだど。「いやあ、困ったなあ、どうしよう」、親だちもね、ほんなふうにしていたの。

そうしたら、ある晩、その虎女が夢見たんだと。その夢の中に観音さまが立だって、「あのなあ、この融さまを見んのは、お山の石、でっかい石がある。そのでっかい石のここに行って、そうして麦の穂を取って、その自分の好きな人、会いたい人の名前を呼んでみる」、そう語ったんだと。

そして、はっと思ったら、その夢が消(け)えちまった。

虎女はさっそく、次の日、あの向かいの山に上がってった。そうしたら、それはでっかい石があったんだと。その石のどごろに行って、麦の穂を取って、「融さーん。融さーん」と呼んだんだと。そうしたら、その融さんが、その石の上にぼーっと立ってきた。「うわっ、懐かしい、融さーん」、そばに寄ってたらさっと消(け)えちまった。「いやあ、せっかく会えたのがっかりしたなあ。いやあ、あれほどほんとに出できてくれたのに、がっかりしたなあ」、そうして、がっかりしてうちに帰って、それから寝ついてしまったんだと。

さあ、親たち心配して、「なんなんだ」って聞いたら、「いや、夜、夢で観音さまが出てこらった」「ああ、そうか。ほんではうちにあるほの観音さま、これをお祀りすっぺ」、そうして、観音さまをお祀りして、ぜひ融さんが迎えに来るようにみんなしてお参りしたんだと。

その甲斐があったのか、融さんから手紙が来たんだと。「虎女よ。おれはあんたところいつも思って、心が乱れ乱れてんだ。おまえんとこから出る、そのしのぶもちずり絹の模様のように、おれの心も乱れ乱れて、おまえんとこしかもう思ってねえんだ。待っててくれろな」、そういう手紙だった。そうして、手紙の端に、“みちのくの 忍ぶもちずり 誰ゆえに みだれ染めにし 我ならなくに”，みちのくのしのぶもちずり絹の模様のように、おれの心はちりぢりになって、いつも苦しんで、おまえんとこた一け思ってんだ、待っててくれろなっていう歌の文句なんだ。

ところが、その虎女、その手紙を抱いたまま、とうとう亡くなってしまったんだと。さ

あ、親だち、「大変だなあ。かわいそうだったなあ。仕方がない、もうお墓に埋めるほかない」、そうして、野辺の送りを済ませたそのお墓が、ずっとこのお山の端んところに今も石が立ってる、それが虎女のお墓だと言われている。

ところが、その話を聞いて、「おらえの先祖さまでもあんのがな」、みんなが、「いやあ、あの石に行って、そうして、観音さま拝みながら、その好きな人、思う人の名前を呼んで麦の穂でこすっと出てくんだつけ」、そういう話になって、みんな、「庄屋さん、観音さま拝ましてくなんしょ」「おれも拝ましてくなんしょ」。「なんだ」「いやあ、麦の穂である石こすっと、おれの思う人、会いたい人が出るちゅうからさ」「ほうか、ほうか、ほんではなあ、拝んでひとつこすってみろ」、庄屋さんも、その観音さま、みんなに拝ませるように観音堂をつくって、そうしてみんなに拝んでもらった。

ところが、周りの麦畑、みーんな麦の穂を取って、「じっちやんに会いで」「いやあ、おれは遠く行った、都に行ったあんちゃんに会ってんだ」ってこすんもんだから、麦畑の麦、ひとつつもとんにやぐなっちまった。それで、怒った百姓ども、「こだ石あつからだ」つつって、「こだ石、突ぶき落とせ」、みんなして、そうして、山の端のほうにあったもんだから、それ、一生懸命あれして突ぶき落としちゃった。それが、沼ん中さドボンと落ちて、しばらくめえねがったんだと。

ところが、それから何百年かたったあと、今から四百年くらい、三百年くらい前だな、堀田正虎(ほったまさとら)という殿さまが、「どごんあんだべ、そだ源融なんて、ちゃんと歌にまでなってるもちずり石、出さなくてなんね」、そうして、ほごに来てみたら、沼のまん中に背中、牛の背中ぐらい沼のまん中に出た。そこで、その堀田正虎が、ほごにしのぶもちずり石あるという石碑を立てて、ほうして後世に残そうということで石を建てたんだと。

そのあと、明治になってから、明治の郡長さんが、「せっかく堀田正虎が石出したんだがら、ほんでは石出してみっぺ」、そうして、沼の堤を切って、その堤の土はみんな、そっからこごまでずっと学校の前に、その土手の土を運んで、そうして、その沼を干してしまった。そうして石を出したのが、今あるしのぶもちずり石なの。

ところがね、郡長さん、一生懸命その石を麦の穂でこすったんだと。ところが、「出でこねなあ、なんぼこすっても」。そしたらね、おらえのぼっぱやんか、おれに教えてくっちゃのは、あのかな、山にあつとぎ表になって、鏡のようなあれだつていって、鏡石、鏡石って昔(むがし)の人は呼んでいた。その鏡のような表が、落どしたもんだがら、底(そご)んなつて、今はなんぼこすつたつてなあ、表が裏になつちまったんだがら、とっちげえだんだがら、わがねんだぞ、出でこねんだぞ、という話。それで、しのぶもちずり石。

ところがね、みんな、県外、長野に行っても、福岡に行っても、こんなんして昔話語ると、紹介に、「あんた、どごだい?」「福島だ」、今はね、原発だがら、「福島だ」っちゅうと、「ああ、そうが、原発が」って、こうわがるがね、昔はわがんながった。「福岡のちよっとどっかの町がい?」なんていわっちゃがね。それで、「いやいや、とんでもね。“みちのくの忍ぶもちずり 誰ゆえに”」って、小倉百人一首、十四番目のところに、「しのぶもちずり石」と書いてある、そこが、わたしが生まれて、そうして、そこに住んでいる清野

だ」「うわあ、すてきな里に住んでるねえ。しのぶもちずりの里」, そうして、みんないっぺんに、ちゃんと名前を覚えてくれて、そして、「いいどごに住んでる」ってみんなうらやましがった、このましがった。

そうなるんだから、みんな、これから大人になって、ほかに行って大きくなって自己紹介するときに、原発よりも小倉百人一首、正月にかかるたで、かるた取りの大会がある。そんなときに詠まれる歌ですから、ぜひ、ひとつあとで覚えておいて、自己紹介に使ってください。

はい。昔話終わりです。

(拍 手)

小林：ありがとうございます。みんなもこのあいだ見学に行きましたよね、もちずりにね。それじゃ、次、渡邊さんから、また昔話、教えていただきます。じゃ、お願いします。

渡邊さん： みなさん、こんにちは。あらためまして渡邊です。わたし、まだ、昔話を始めて日が長くてたっていないもんですから、間違うかもしれませんが聞いてください。「とら猫の恩返し」。

これなーい、むがーしむがしの話ない。わがい時(どき)は、あっちの法事、こっちの法事って頼まっちゃんだけでも、今、年取ってだーれも頼む人いなくなっただど。そしてない、一緒に住んでたとら猫も、昔(むがし)はねずみいっぺとったんだけど、今はちーともとんねで、縁側さながーぐ伸び寝でんだど。それを見たおしよさま、「なあ、とらやなあ。昔(むがし)はいっぺえ働(はだら)いたんだけどもなー、いいがらいいがら寝でろ」っていったんだど。

そんなある日、村のえらーいどごのおぼんちゃんが亡くなって、それはそれは大きなお葬式だったんだと。あっちの坊さま、こっちのおしよさまときて、そして、お葬式も終わって棺を担いでお墓に行く段取りになったんだと。昔だから四人の村の人がおっちらおっちらと棺を担いで墓まで行って、もう少しで墓だなあと思うところで、いやあに肩が軽くなったんだと。「あれ、これ、奇体だな」と思ってたら、その棺が、ぐんぐん、ぐんぐん、ぐんぐん、上に上がって、どんどん、どんどん、どんどん、空まで上がってしまった。「いやー、これは大変だ。これ、お経(ぎょう)足んにがったんでねーが。まーだおしよさま、座敷にいるはずだ。呼ばってこ」。村の人は大騒ぎになって、おしよさまがみんなで来てお経をあげたんだけど、ちっとも効き目がね。いやあ、あれ、年寄り(としより)おしよさまでも呼んでくるしかねえんでねえが、村の人が言ったんだと。「いやあ、あのおしよさま呼んできたってわがねべ」「いやあ、どうだがわがねべげど呼んでくっぺ」、村の人が行ったど。

「おしよさま、おしよさま。いらったがい。いやなーい、こういうわけでなーい」とおしよさまに話したんだと。「だからちょっと来てくなんしょ」「いや、おれ、行ったってわがねべ」「いや、わがねべくてもいいがら来てくなんしょ」「ほうがい」なんつって、おしよさま用意して縁側に出たらば、いっつも寝ているとら猫いねえんだと。ああ、これはとら猫のしわざだと思ったおしよさま、ぼっこれ引き出しから、ねずみ食ったもっこ衣

着て行ったど。そして、「とらにやあにやあ、とらにやあにやあ、とらおとせ」, 静かに話したら、少しずつ棺が下がってきた。「ああ、やっぱこれはとら猫のしわざだな」, そう思ったおしょさま、「とらにやあにやあ、とらにやあにやあ、とらおとせ。とらにやあにやあ、とらにやあにやあ、とらおとせ」と、おっきな声で言ったら、ぴたっとその棺桶がもとのさやに収まった。そして、無事お墓に埋めて帰ってきた。村の人は大喜び。「いや、おしょさま、ありがとうございます。やっと無事にお葬式終わった」, いっぱいっばいのお布施を持ってお礼に来てくっちゃんだと。そのあとで、のっそりのっそりととら猫が帰ってきたんだと。

昔っから、猫は魔物だから、動がなくなっても粗末にしちやなんねえぞって昔からお話が言い伝えられています。「とら猫の恩返し」, おしまいです。

(拍 手)



渡邊慶子さん

小林：はい。渡邊さん、どうもありがとうございました。いやあ、なんかやっぱり昔話っていうのは地元の言葉で聞くのがいちばんいいですねえ。

というところで、一回休み時間にしまして切り替えをします。そして、次、4校時になってからまた再開したいと思いますので、ひとまずここで休憩します。じゃ、日直さん、一応あいさつお願いします。何組？日直さん。………2組さんで。はい、お願いします。

児童：気をつけ。

一同：はい。

児童：これで3校時目の方言の学習を終わります。ありがとうございました。

一同：ありがとうございました。

(休 憩)

—始 業—

児 童：4時間目の学習を始めます。お願いします。

一 同：お願いします。

小 林：はい。それじゃね、4時間目、後半のほうに移ります。今度は、福島大学の半沢先生のほうから、福島県の方言についてお話をいただきます。前には、みんなで日本の国にどんな方言があるか、日本全体のことをちょっと簡単にやりましたけれども、今度は、福島県というのはどうなのかについて少し詳しくお話ししていただきますので、よく聞いてください。では、半沢先生、お願いいたします。

—(3)福島の方言を知ろう—

半 沢：では、みなさん、あらためまして、こんにちは。みなさん、さっき発表を聞かせてもらったんだけど、とっても詳しく方言を調べてきてくれていて、先生、教えることがなくなってしまったなというふうに思うくらいすばらしいなと思いました。

ちょっと簡単に、福島県の方言ってどんなのっていうことを、スライドをつくってきたので、これを見ながらお話ししていきたいと思います。

小林先生の授業で、もしかしたら習っているかもしれないけど、日本の方言って、実はこんなふうに、地域、地域で色別にしてあるけれども、分かれているんですね。北海道があって、それから東北地方のところは水色になっていますよね。東北地方の言葉というのは「東北の方言」というふうに言われるんだけど、見てもらうと、実は茨城県とか栃木県も水色になってますよね。茨城・栃木ってみんな関東と習ったでしょう。でも、栃木や茨城というのは実は方言は福島とおんなじ東北の方言なんですね。ほかにもこんなふうに色によっていろいろ分かれています。

さらに、東北の方言というのは、実はもっと細かく見ると、北のほうと南のほうでもちょっと違うんです。この北奥方言と南奥方言、奥羽地方ってわかりますか。……わかる。奥羽地方の「奥羽」というのを取って、北のほうは北奥方言、それから、南のほうは南奥方言というふうに分かれています。ちょっと拡大するとこんな感じで、僕たちがいる福島県は南なので南奥方言というんだね。北のほうの青森とか秋田とか岩手県というのは北奥方言ということになります。

北奥方言ってすごい難しいんですね。同じ東北弁なんだけど、東北方言なんだけど、とっても難しく、ちょっと皆さんに聞いてもらおうと思うんですけども、わかりますかね。青森県の津軽地方というところのおばあさんたちの会話のテープがあるので、ちょっと聞いてみてね。

(録音再生)

どうですか、みなさん。わかりますか。外国語のようだよ。字幕がないとちょっとわからないと思います。清野さんや渡邊さん、おわかりになりますか。……清野さん、渡邊さんもわからない。方言のプロであるお二人もわからない。実は、ぼくも聞いてもわからないんですね。何を言ってるかちょっとわからないぐらい、実はこんなに北と南というのは、みなさん、福島の方言はわかるよね、聞くと。おじいさん、おばあさんが話しているのを聞いてわかると思うんだけど、北のほうに行くとぜんぜんこんなふうに方言が違っているんですね。

では、福島県、南奥方言である福島県はどうなっているかということですがけれども、今度、福島県の中をさらに分けてみました。見えますか。だいたいこんな感じで色別になっているところで方言が分かれています。われわれがいる福島市は中通りの北のほうですよ。南のほうに行くと、例えば郡山とか白河に行くと、同じ中通りでもちょっと方言が違ったりするんですね。それから、小林先生のご出身の浜通りも、北のほうと、相馬とか南相馬というところと、ここら辺と、それからいわきのあたりというのは違います。会津も、会津弁って一つじゃなくて、実は北と南で少し言い方が違いますね。それから、檜枝岐ってみんな知ってますか。会津のいちばん外れにある、ここなんですけど、ここはぜんぜん方言が違うんですよ。ぜんぜん東北弁じゃなくてね、群馬県とか新潟県とか関東の言葉にちょっと近い言葉が使われてたりするんですね。

どんなふうに違うかというのをちょっとお見せすると、例えば、みんな「んだべした」って知ってる？「んだべした」とか「そうだべした」って「じゃん」にあたる言葉で、「そうじゃん」というのを、福島県では「んだべした」とか「そうだべした」って言うけど、この青い四角で書いたところは「んだべした」とか「そうだべした」を使うところです。福島だと使うよね。だけど、この辺、郡山に行くと、これが「そうだばい」とか「んだばい」という言い方になるんですね。聞いたことある？郡山の人には「んだばい」っていう言い方をします。いわきに行くと、いわきの人には「そうだっぺ」とか「んだっぺ」という言い方をしますね。こんなふうに、同じ福島県でも方言はぜんぜん違います。

それから、疑問の表現ね。相手の人に聞くとき、例えば、福島弁だとなんて言うかわかる？「行きますか」というのを聞くときに。わかる？みなさん。「行きますか」ってお父さん、お母さんなんかは、「行くがい」って言わない？……「なんかがい？」って言うよね。これは中通りの方は「行くがい」って言いますね。

だけど、小林先生の浜通りの北のほうは「がい」と言わないんですね。浜通りの北のほうは「行くが」というふうに言う。福島の方が聞くとちょっと乱暴に聞こえたりするんですね。いわきの人にはなんて言うか知ってる？いわきの人には「いぐげ」っていう。「いぐげ」とか「いくけ」というふうに「け」という言い方なんですね。会津はなんて言うか知ってますか。会津は「行くがよ」とか「行くがし」とか、こんな言い方をします。さっき言った檜枝岐は「行くかしゅう」って言うんです。すごいでしょ。なんか昔の古典の言葉みたいだね、「行くかしゅう」というような言い方をして、こんなに、福島県は広いので、同じ疑問の表現でも地域でぜんぜん違ったりするんですね。

それから、あとは、この分け方、これは何かというと、さっき清野さんのお話で、ズーズー弁という言葉が出てきましたけれども、わかりましたか、みなさん。ズーズー弁って知ってる？これね、実は福島県の中でズーズー弁の地域、実は福島市はズーズー弁の地域なんだけど、ズーズー弁のところと、ズーズー弁じゃないところがあるんですね。そう、非ズーズー弁。郡山はズーズー弁じゃない。ズーズー弁って何かというと、みなさん、これ、なんて言いますか。



児童：すし。

半沢：「すし」だよ。これなんて言いますか。

児童：ウニ。

半沢：これ、まっくろくろすけなんだけど。

児童：ああ、まっくろくろすけ。

半沢：天井とかの黒いやつ。あれ、なんて言う？

児童：すす。

半沢：そうそう、「すす」だよ。そう、「すす」と「すし」は違いますよね。ところが、ズーズー弁の地域の方は、今はそうでもないんだけど、昔のズーズー弁地域の方は、これが両方とも「すす」というふうに「し」と「す」とか、「じ」と「ず」がおんなじ発音になっちゃうんですね。これもね、ちょっと聞いてもらうと、これはあるおばあさんの発音なんですけど。

(録音再生)

半沢：「おすす」って言ってるね。こっちは「すす」たまった、ですね。……おんなじだと言ってますね。みんなは違うでしょう。「すし」と「すす」は違うんだけど、ズーズー弁と呼

ばれるところの昔のおじいさんおばあさんというのはおんなじ発音になってしまうということがあったりしたんですね。これ知ってます？このお菓子。これ、枝豆を……

児 童：ずんだもち。

半 沢：そうそう。「ずんだもち」だよ。これ、仙台の有名なお菓子で「ずんだもち」って言いますが、南沢又に木の幡というお菓子屋さんがあるの、知ってますか、みなさん。わかる？あそこのお店って、実は原町という南相馬市が本店なんですけど、あそこのお店はこれのことを「ずんだもち」と言わないんだよね。知ってる？ここに書いてあるんですけど、ちょっと拡大しますね。

児 童：じんだもち。

半 沢：そう。「じんだもち」というふうに言ってます。これ、なんでこっちは「じんだもち」っていうかという、これ、本当は「じんだもち」なんだよね。「じんだもち」なんだけど、さっき言ったようにズーズー弁の人は「じ」と「ず」がなまって「ず」になっちゃうでしょう。だから「ずんだもち」になっちゃったんですね。だから、本当は、これは仙台の人に言っちゃだめだよ。仙台の人に言うと怒られるからね。仙台の人は「ずんだもち」が正しいと思ってるんだけど、本当は「じんだもち」という言い方が正しいんですね。こんなふうに発音が違ったりということもあります。

それから、みなさん、さっきいろんな方言を調べてきてくれて、もともとの言い方というのをみなさん調べてくれたんだけど、実はみなさんが使っている言葉の中にも結構方言があるんですよ。「気づかない方言」というんだけど、例えば、今、4校時目だよ。

「4校時」とか「4校時目」って方言だって知ってました？

児 童：ええっ。

半 沢：東京の人は4時間目っていうんです。4校時目という言い方をするのは、実は福島県とか宮城県とか、東北の中の一部だけなんですね。知らなかったでしょう。みんなが使っている言葉の中に結構方言があったりするんですね。

これ、なんて言いますか、みなさん。……そう。ばんそうこうのことだけど、これ、「カットバン」と言いますよね。「カットバン」って方言だって知ってた？これも地図があって、実は「カットバン」というのは東北地方の人は言うんですけど、関東の人は「バンドエイド」って言う。北海道の人は「サビオ」って言うんですね。九州に行くと「リバテープ」って言ったり、いろんな言い方があって、実はこんなふうにみんな知らないで使っている言葉の中に方言があったりするんですね。

髪の毛をゴムでこうするのを「髪しばる」というでしょう。これも東京では実は言わない。「髪を結ぶ」、そうそう。これは『うちの三姉妹』って漫画なんですけど……そう。ここに書いてある。「髪むすんでー」っていう言い方が関東だとふつうなんですね。これもいろんな言い方があって、これは知ってますかね。『ハイスコア』って知ってる？知らないかな。ここには、「髪くくる」という言い方が出てきて、西日本の人は髪の毛は「くくる」って言うんですね。こんなふうに、方言だと知らないで使っているようなものというのは結構あります。

ご飯を「わける」と言いませんか、みなさん。お茶碗にご飯をよそうことを、ご飯を

「わかる」。「ご飯わけて」って言わない？これも実は方言なんですね。これは先生も実は知らなくて、共通語だと思って、日本全国で「わかる」というんだと思っていたら、大学に行って、それは言わないですと言われてびっくりしたことがありました。そんなものがあるということですね。

もう一つ、「歩いていく」という言い方をしますか。「歩いていく」も方言なんだよ。共通語だと「歩いていく」というんだけど。結構、みんな自分で方言を使ってないと思ってたでしょう。自分たちは共通語を使ってると思ったけど、実は結構、ぼくたちが使ってる言葉の中には方言がまざっているんですね。そういう言葉も含めて、いろいろまた方言の勉強をこのあと引き続きしてもらいたいなというふうに思います。

じゃ、先生の話はこれで終わります。ありがとうございました。

(拍手)

—(4)方言を聞こう、話そう—

小 林：ありがとうございました。方言っておもしろいね。結構身近なところにいっぱいあるんだね、気がつかない方言ね、楽しいですね。

さあ、さっきいろんな方言が出てきたけれども、みんな、今日、すばらしいカードをつくってきました。なんて書いてある？

一 同：「ふるさとの言葉、福島の方言」。

小 林：うん。みんながさっきいろいろ調べてきたので、みんな福島の方言がよくわかったと思うけれども、例えば、これは方言で？

一 同：「べこ」。

小 林：すごい。例えば、子どもがお父さんの首に乗っかる、これは？

一 同：「かたぐるま」

小 林：「かたぐるま」、でも、これはなんて言ったっけ。

一 同：「でんでんまっこ」

小 林：「でんでんまっこ」、珍しいね。それから、これはなんだろうか。

一 同：「くものえず」。

小 林：「くものえず」ね。すぐわかった、「くものえず」っていったね。じゃ、これはなんだろう。

一 同：「チャック」

小 林：「チャック」ね。共通語で言うと。

一 同：「ファスナー」

小 林：でも、「チャック」とか「ザック」という言い方がある。ごろごろ、ごろごろ、ごろごろ…

一 同：「らいさま」

小 林：ピカッ。

一 同：「いなびかり」

小林：すごい。みんな、「いなびかり」、発音もいいね。じゃ、冬の朝ぶら下がってるこれ。
児童：「たるひ」
小林：「たるひ」、共通語で言うと？
児童：「つらら」
小林：おぎゃあ、おぎゃあ、おぎゃあ……………
児童：「赤ん坊」
小林：「赤ん坊」、あるいは？
児童：「ややく」
小林：「ややく」？じゃ、その子どものことをよしよし、よしよし、これは。
児童：「もりっこ」



小林：「もりっこ」。これ、いわきはいかがですか。
松崎先生：特にないですね。
小林：校長先生いかがですか。三春のほうでは何か。
校長先生：「子守り」
小林：「子守り」、ありがとうございます。由美子先生、どうですか。
由美子先生：「もりっこ」
小林：「もりっこ」ね。やっぱり「もり」という言葉がつきますよね。子どもを大事に守ってるんですね。……………わっ、びっくり。これは？
児童：「たまげた」
小林：「たまげた」、みんなも使う？恥ずかしい……………
児童：「しょうしい」
小林：「しょうしい」、おお。これもおもしろいの出てきたね、さっき。かまきりのことなんて言

ったっけ。

児 童：「いぼいぼ虫」だっけ？

小 林：「いぼいぼ虫」「いぼ虫」。あちっ…………

児 童：「やけっばだ」

児 童：「かんかじ」

小 林：「かんかじ」「やけっばた」。ごろーん，痛い。

(自由な発言)

小 林：校長先生，なんですか。

校長先生：「でっころぶ」

小 林：「でっころぶ」，本当に痛そうな感じがしますね。「走る」…………

児 童：「はねる」

小 林：「はねる」。じゃ，「かけっこ」は。

児 童：「はねくら」

小 林：「はねくら」「はねっくら」，2つあるね。ぐーすか，ぐーすか。

児 童：「はなぐら」

小 林：「はなぐら」，共通語では？

児 童：「いびき」

小 林：みんな，共通語のほう忘れちゃだめだよ，方言のほうだけ。重たい箱をよいしょっと。

児 童：「たんがぐ」

児 童：「もっちゃげる」

小 林：「たんがぐ」「もっちゃげる」。はい。みんなの好きな？

児 童：「とうみぎ」

小 林：「とうみぎ」ね。茶碗とか，ほら洗いやすく水に浸しておく。…………校長先生，どうですか。

校長先生：「うるがす」

小 林：「うるがす」，ありがとうございます。「うるがす」，みんなのうちでも使ってる？ほら，ズボンのすそに泥が点々とはねる泥はね。

(自由発言)

小 林：みんなね，すごくよく調べてきたし，発音もすごくいいです。じゃ，今度ね，方言の会話，実際に方言のやりとり，どんなふうになるのか，ちょっとお二人にやっていただきます。じゃ，清野さん，渡邊さん，ちょっとお願いします。みんな，よく耳を澄ませて聞きましょう。

清野さん：こんにちは。はい，せっかくどうもなーい。畑(はだけ)でなにをしてらったの？

渡邊さん：いや，ない，ほうれんそう畑の草が伸びでない，あんまりひどいから草むしりしてんだぞい。

清野さん：ほうがいさ。いやあ，今日はあったがでいいない。

渡邊さん：いやない。あつたがいから草むしりもはがいがくない。ほうれんそう食うがい？甘いほうれんそうだぞい。

清野さん：いやあ、ごっつおさまだない。今晚ほんではゆででごっつおになっぺ。

渡邊さん：ほーら、これぐらいあつたらまにあうんべ。持ってがんしょ。

清野さん：いやあ、いずもたいへんだない。ほんだ、もらってつかんない。

渡邊さん：はい。んじゃない、しゃようなら。

清野さん：はい。ありがどない。

(拍 手)



小林：すごい、なんかいきいきとした会話でしたね。今のところに方言がたくさんありましたけど、意味のわかんない言葉、ありましたか。………だいたいわかりました？はい、すごいですね。じゃ、もう一つ別の会話、ちょっと聞いてみましょう。

清野さん：あらあ、どごさ行ってこらったの？

渡邊さん：いやない、医者に行ってきたんだぞい。

清野さん：なんだべ。どご、あんべわりいの。

渡邊さん：いや、ない。石ころにない、けつつまづいで、すっころんでしまったんだよ。そうしてね、かだいでくて、ゆんべち一つとも眠らんにがったんだ。

清野さん：あらあ、それはしんぺだない。ほんだ、起(おぎ)んの大変だったない。

渡邊さん：いやない、肩(かだ)動かさずど痛(いた)くてない、やっど起(おぎ)だんだぞい。

清野さん：ほんじはない、大変だった。ほんだ、あの、だいにしらんしょない。

渡邊さん：はい。ありがどない。

(拍 手)

小林：すごい。なんかもういきいきしてますね。すごい。方言を話したくなってきましたね。じゃあね、みんなにちょっと方言を実際に話してもらいたいと思います。少し練習します。……じゃあね、今の会話文の台本というか、それをお借りしましたので、ちょっと練習してみましよう。「あら、どこに行ってきたの」と聞いているんでしょうか。この部分でしょうか。ちょっと発音していただきましようか。

清野さん：「あらあ、どごさ行ってこらったの」

小林：ちょっとやってみましよう。さんはい。

一同：「あらあ、どごさ行ってこらったの」

小林：「あらあ、どごさ行ってこらったの」、もう一回、さんはい。

一同：「あらあ、どごさ行ってこらったの」

小林：ちょっとやってみましようか。ちょっとお願いします。

児童：「あらあ、どごさ行ってこらったの」

小林：どうでしょうか。もう一人ぐらい、男の子。

児童：「あらあ、どごさ行ってこらったの」

小林：いかがですか。

渡邊さん：とっても上手です。

小林：上手だそうです。すばらしいですね。じゃあ、「夕べ、眠れなかったんだ」というやつ、やってみましようか。「夕べ、眠れなかったんだ」。

清野さん：「ずんべはない、眠らんにがったの」

一同：「ずんべはない、眠らんにがったの」

小林：もう一度お願いします。

清野さん：「ずんべはない、眠らんにがったの」

一同：「ずんべはない、眠らんにがったの」

小林：どうでしょうか。

児童：「ずん、ずん……ずんべはない、眠らんにがったの」

小林：すばらしい。どうですか。

児童：「ずんべはない、眠れなかった」

小林：「ずんべはない、眠れなかったの」ね。ありがとうございます。難しそうで、なんか楽しいですね。もう一つちょっといいですか。お借りしますね。これはどうでしょうかね。「畑で何してきたんだい」ということでしょうか。

清野さん：「畑でなにをしてらったんだい」

小林：もう一回お願いします。

清野さん：「畑でなにをしてらったんだい」

小林：みんな一緒に、さんはい。

一同：「畑でなにをしてらったんだい」

小林：ちょっとやってみましよう。

児童：「畑でなにをしてらったんだい」

小林：どうでしょうか。……上手ですね。もう一人誰かどうですか。

児 童：「畑でなにをしてらったんだい」

小 林：いかがですか。………すごくいいそうです。ありがとうございました。

清野さん：言い方もいろいろあるんですけど、「畑でなにしてんだ」って、こういうあれもあるし、「畑でなにしてんの」っていう聞き方もある。「畑でなにをしてらったんだい」っていうのは、それは丁寧に女の人にねづく聞くというのか。あとは、ふつう男同士だと、「おう、畑でなににした？」って、「畑でなにしてんだい」と、いろいろやっぱり。

小 林：ありがとうございました。………あのね、今のお話の中にこんなのもありましたね、会話にね。「いやあ、あったがいがら草むしりもはがいくない。「はがいくない」ってみんな聞いたことある？

(自由な発言)

小 林：すごい。「はかどる」という意味でよろしいですか。

渡邊さん：「はかどる」でいいと思うんですけど。

小 林：ありがとうございました。そうすると、例えば、勉強がはかどるというのはなんて言うのかな。

(自由な発言)

小 林：「勉強がはがいく」、なるほどね。「はがいくない」と、こうなりましたね。これはいろんなものに使えるそうですね、なんかね。それから、「ご飯が」ってさっき言ったね。誰だっけ、言ってくれた人。「ご飯がはかいく」、それはどこで聞きましたか。

児 童：よくお母さんとかが言ってる。

小 林：お母さんがよく言ってる？すばらしいですね。家で使ってるんだね、ふつうにね。あとね、こんな言い方もありました。「ほら、これぐらいあったらまにあうべ。持ってがんしょ」。「持ってがんしょ」というのは、これはどういう意味なんでしょうか。

渡邊さん：持って行ってください。

小 林：「持って行ってください」という言い方で、「がんしょ」とこうつくようですね。じゃ、「持ってってください」という意味で、「持ってがんしょ」をちょっと練習してみましよう。

渡邊さん：「持ってがんしょ」

小 林：さんはい。

一 同：「持ってがんしょ」

小 林：もう一回、さんはい。

一 同：「持ってがんしょ」

小 林：いいですね。みんな、もう即、方言名人になれそうですね。すばらしい。それじゃね、今いろんな会話をしてもらったり、みんなに練習してもらったりしたんですが、実は、さっき見せたこのパネル、カードね、だいたいみなさんが調べてきたものの中にある言葉でしたけれども、今度は、みなさんが調べてきたところのないものをちょっと出します。方言でなんて言うか、これはわかったらすごいよ。みんな調べてないのでわからない可能性大です。さて、これはなんでしょうかね。

(自由な発言)

小 林：あじさい。じゃ、これはなに？ちょっと雨降ってますけど。

(自由な発言)

小 林：時期は梅雨だね。さて、梅雨のこと、何か別の言い方あるかな。……梅雨？……ゲリラ豪雨？……先生方はいかがですか。梅雨の言い方、何かありますか。……入梅。はあ。入梅、いかがでしょうか。「入梅」っていうのもね、実は方言なんです。梅雨のことを言います。「入梅」。みんな言ってみましょう。

一 同：「入梅」

小 林：「入梅」

一 同：「入梅」

小 林：それじゃね、これはなんだろう。

(自由な発言)

小 林：とんぼのこと、これはさつきあつたっけか。あつたね、ごめんね。とんぼはなんだっけ。

(自由な発言)

小 林：はい。これはなあに。

(自由な発言)

小 林：「おてんとうさま」、おお、みんななんというすばらしいね。んじゃね、これなんだろう。

(自由な発言)

小 林：「おむすび」「にぎりめし」、あとは？何かあと別なのはありますか。「おにぎり」……

(自由な発言)

小 林：これね、「やきめし」なんて言うところもあります。

(自由な発言)

小 林：いかがですか。

清野さん：「やけめし」は「やけめし」。

渡邊さん：「むすび」っても言いますね。

小 林：ありがとうございました。いろんな言い方あるね。おもしろいね。これはなんだろう。

(自由な発言)

小 林：ごみを「投げる」っていうね。そういえば、お掃除なんかでも、「はい。ごみ投げてください」とか「ごみ投げ当番」とかと言いますけど。例えば、これね、実は、先生の知ってる南相馬の人が東京の学校に避難したときに、ガラス割れたときに、「ガラス投げてきます」といったらびっくりされたんだって。パリンと割れたガラス、掃くでしょう、ほうきで。そ

れを「投げる」, シューツ。

(自由な発言)

小 林：危ないね。実は「投げる」というのは「捨てる」の方言で、北海道や東北でよく使われています。ところで、「投げる」はいいんですけども、この紙、どんなふうにしてありますか。

(自由な発言)

小 林：紙を丸めてありますよね。その、紙をこんなふうにすることをなんて言うのかな。

(自由な発言)

小 林：「くしゃくしゃにする」「丸める」、校長先生、いかがですか。

校長先生：「もじゃぐる」

小 林：「もじゃぐる」、聞いたことありますか。「もじゃぐる」、清野さん、いかがですか。「もじゃぐる」。

清野さん：これはもみくちや、もじゃくる。

渡邊さん：もじゃぐる。

小 林：みんなも言ってみましょう。「もじゃぐる」、さんはい。

一 同：「もじゃぐる」

小 林：もう一回。

一 同：「もじゃぐる」

小 林：すばらしい。じゃ、紙をこうすることをなんて言うのかな。今度は、紙をこうすることっていうんだけども、ぼっこわすことじゃなくて、例えばこれ、いいかい、みんな。

(自由な発言)

小 林：これ、共通語だと？

(自由な発言)

小 林：破るとか破く。別な言い方、何かありますか。

(自由な発言)

清野さん：ぶつつあぐ。

渡邊さん：ぶっちやぐ。

小 林：みんなも言ってみましょう。さんはい。

一 同：「ぶっちやぐ」

小 林：よく聞いて。

清野さん：「ぶっちやぐ」

一 同：「ぶっちやぐ」

渡邊さん：「ぶっちゃぐ」

一 同：「ぶっちゃぐ」

渡邊さん：「ふつつあぐ」

一 同：「ふつつあぐ」

小 林：でもね、これはね、実は今聞いたこの辺の言い方で、似てるけど違う言い方もあります。先生方で何か近い言い方で別な言い方はありますか。校長先生、お願いします。

校長先生：ぶっちゃぐ。

—(5)感想発表—

小 林：校長先生だと「ふ」じゃなくて「ぶ」と、こういうふうになりましたね。校長先生のは「ぶっちゃぐ」だったそうですね。いろんな言い方がありますよね。だから、言葉というのはそれぞれの地方でいろんな言い方があるって、それぞれ便利に使われていて、とてもいいですね。なんか、今日は方言の勉強してよかったなと先生は思ってますけど、みなさんはどうでしょうかね。

それじゃね、今日の方言の勉強をした感想を、ちょっと何人かの人に聞いてみましょう。誰か、今日の感想を言ってくれる人いませんか。ひと言お願いします。

児 童：今日は知らない方言などをたくさん教えてくれてありがとうございました。あ、教えていただきありがとうございます。この方言がいろんなことに使えたらなと思いました。本当にありがとうございました。

小 林：はい。ぜひ使ってくださいね。あと、どうでしょうか。

児 童：はい。身近に使っている言葉も方言だと気づいたので本当にありがとうございました。

小 林：気づいたというのがいいね。今まで気がつかなかったけど、半沢先生の話にあった「気づかない方言」だったね。

児 童：わたしは、初めて知った方言もあるし、中にはとてもおもしろい方言もあったので楽しかったです。

小 林：ありがとうございます。

児 童：ぼくは、いろいろな方言があるとは知らなかったもので、これからの生活でも生かしていきたいなと思いました。

小 林：はい。ありがとうございます。

児 童：同じ県でも違いがあるということも知ったし、県の分け方も気づいたので、方言はいいなと思いました。

—(6)まとめ—

小 林：はい、ありがとうございました。

それじゃね、今日のお勉強を振り返りましたけれども、今日の方言のみなさんが調べてきた発表や、あるいは、今、実際に方言の会話をまねして発音してもらいましたが、そう

いうこと全部ひっくるめて、半沢先生に、今日の感想と言いますか、お話をひと言お願いします。

半 沢：みなさん、お疲れさまでした。2時間続きで大変だったと思いますけれども、おもしろかったですか、お勉強………じゃ、よかったですね。さっきもちよつと言いましたけど、みなさん、あんなにたくさん、しっかり調べてきてくれるとは、実はちよつと想像してなくて、すごい予想以上にたくさんの方言を調べてきてくれたのでとっても感心しました。それから、清野さんと渡邊さんの方言の会話をさっきみんなまねしてもらったけども、ふだん本当に使っていないの？ふだん使ってるんじゃないかっていうぐらい非常に上手に、スムーズに練習ができて、上手だなというふうに思いました。

みなさんも知ってると思うんですけども、方言ってだんだん実は使われなくなってきているんですね。各地でみんな共通語になってしまっていて、方言がなくなってしまいつつあるというところがあるですけど、もし、今日の勉強で興味を持ってもらったら、どんどん、おじいさんおばあさん、あるいはお父さんお母さんとお話しして、方言でお話をし、あるいは、昔の方言を教えてもらって、ぜひ、岡山地区の言葉をみんな大事に引き継いでいってもらえたらなというふうに思います。

今日は本当にお疲れさまでした。たいへん感心して聞かせてもらいました。ありがとうございました。

小 林：はい、ありがとうございました。

今日の勉強、みんなすごく盛り上がったし、たくさん調べてきたので、今度、社会科の時間でもちょこちょこつとずつこのことに触れたいと思います。また、みなさん、調べ方もわかったので、今度、さらにおうちの人やおじいさんおばあさんに聞いて、いろんな言葉がわかったら教えてください。また、それをみんなで勉強したいと思います。

では、今日、ゲストティーチャーで来てくださった3人の方にもう一度お礼を言いたいと思います。清野さん、渡邊さん、そして半沢先生、お忙しいところたいへんありがとうございました。

一 同：ありがとうございました。

小 林：それでは終わりのあいさつを、日直さん、お願いします。

児 童：気をつけ。

一 同：はい。

児 童：これで4時間目の学習を終わります。ありがとうございました。

一 同：ありがとうございました。

—終 業—

(以 上)

授業を終えて

今回の授業は6年生を対象に、「ふるさとのことばを学ぼう『福島の方言』」と題し、国語の授業として行った。6年生の3学期であることから、小学校国語科学習の基礎は十分に身につけていると考え、3時間扱い(小学校の1単位時間は45分であるので135分)として計画し、2回に分けて行った。1回目(45分)は各学級で、方言の基礎知識と調査方法を扱い、方言調査の宿題を課した。2回目(90分)は3学級合同で、調査してきた方言の発表、昔話や福島方言の学習、フリップ(絵カード)を使った方言クイズ、方言会話などを扱った。授業の実施にあたっては、特に次のことに配慮した。

1.授業の準備で配慮したこと

(1)方言調査票の調査項目には、言語地図や地元の方言集を参考にしながら、方言語形(俚言)が得られやすいものを設定した。

(2)フリップ(絵カード)は、イラストレーターとの打ち合わせを綿密に行って作製した。特に、思考を妨げる余計な情報が入らないようにすることや、児童の発達段階を考慮した親しみやすい絵になるように工夫・配慮した。

(3)ゲストティーチャーとの事前打ち合わせを綿密に行った。方言調査票や指導略案を見ていただき、授業で取り上げる方言語形や指導過程を説明し、時間配分を確認した。ゲストティーチャー自身の時間配分の認識は特に重要である。

2.授業の中で配慮したこと

(1)導入で興味関心を持たせるために、カラーの言語地図(『方言指導掛図』)を提示した。『日本言語地図』の略図である。

(2)方言調査の学習では、授業者がインフォーマント役になり、児童に実際の調査を体感させた。また、宿題(調査)の約束として、インターネットや本は使わず、必ず家族や近所の人に直接聞いて、聞こえたとおりに記録するように指示した。

(3)方言の発表やクイズでは、すべてを肯定的に受け止めて称賛し、児童の学習意欲の高揚を図った。方言に正解や不正解はないこと、その言い方で使われているという事実が大事であるという認識を持たせるように努めた。

児童は1回目の方言調査の学習から興味関心を持って取り組んでいた。回収した宿題の方言調査票を見ると、福島市およびその周辺の伝統的な方言がたくさん記録されており、意欲的に調査したことがうかがえる。地域素材としての方言は、教材としての大きな可能性を持っている。それを教材化して、授業に取り入れることは、日本語の表現の豊かさに気づき、多様性を認め、ふるさとのことばを大切にする心にもつながるものである。国語科教育で方言教材をていねいに扱うことや、各地域の方言を教材化する教材開発が今、必要である。今後も方言の教材開発と授業実践に積極的に取り組んでいきたい。なお、指導計画と略案の一部に違っているところがある。計画や案は何度も練り直すものであり、実際の授業展開はその通りにならないことが自然である。

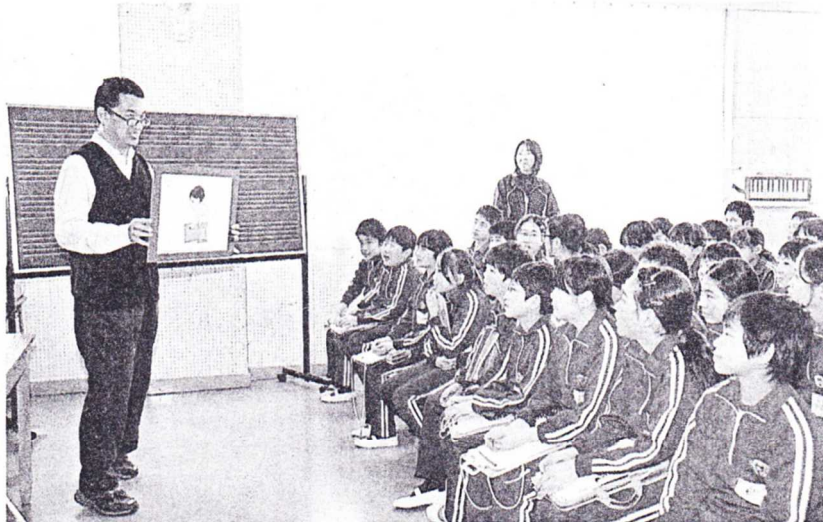
(小林初夫)

古里の温かい方言学ぶ

絵を見て表現に挑戦

岡山小 6年生 地元の2人ら講師に

小林教諭(左)が示す絵を方言で表現する児童



「地域による違い」も理解

福島市の岡山小で十七日、福島の方言についての授業が行われ、児童が古里の言葉を学んだ。

六年生約七十人が参加した。福島の方言に興味を持ち、日本語の豊かさに気付くきっかけにしておらうと実施した。日本語学会会員の小林初夫同校教諭が教えた。福島大の半沢康教授、学校近くに住む福島民話茶屋の会顧問の清野吉巳さんと同会庶務の渡辺慶子さんがゲストティーチャーとなった。



方言を使った会話を披露する清野さん(右)と渡辺さん

児童は清野さんと渡辺さんが方言で語る昔話を聞き、半沢教授からは県内でも地域によって方言が異なることなどを学んだ。小林教諭が示す絵入りのボードを見て、絵を方言で表現した。清野さんらが話す

「どございってこらったの?」「はだけで何してらったんだい?」などの方言を交えた会話を、声をそろえて復唱した。児童は「身近に使っている言葉の中にも方言があると気付いた」などと感想を話した。

福島県内被災地方言談話資料

以下には本事業で収集した福島県内被災地方言の談話資料を掲載する。

すでに他地点での調査も実施済みであるが、紙幅の関係もあり掲載を2地点に限った。

いずれの談話資料もおおよそ1時間～2時間程度、東日本大震災の体験などを中心に、複数のインフォーマントに自由に会話をしていただき、その様子を録音させていただいたものである。各地の貴重な方言資料であると同時に「震災の記録」としても重要な意義を持つ。本書掲載はこれも紙幅の関係でその一部(15～20分程度)にとどまるが、残りの部分についても他地点の資料とともに適宜整理を進め、準備が整い次第、順次「事業概要」にて紹介した「福島県内被災地の方言情報を発信するwebページ」に掲載する。

文字化作業は福島県内のテープ起こし業者へ業務を発注して行った。そのためガ行鼻音と破裂音の差異など、詳細な音声の書き分けは行っていない。本誌の資料はあくまでも「速報版」であることをお断りしておく。

文字化の方法等については、東北大学方言研究センター編2013『伝える、励ます、学ぶ、被災地方言会話集』の基準にほぼ従っている。ただし「聞き取り不能」の箇所は理由によらず、すべて×××のように表記した。あいづちや笑い声などの非言語音は表記していない。

下段の共通語訳は二階堂千紘(福島大学大学院)が草稿を作成し、責任者が確認・修正した。

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡富岡町 —

[収録場所] 郡山南一丁目仮設住宅内

[話者] A(高年層女性), B(高年層女性), C(高年層女性)

[調査者] 半沢康

001A : デモ コンナトコデ シヌノカト オモートネ ココデ イマネ ナルベク
でも こんなところで 死ぬのかと 思うとね ここで 今ね なるべく

ホーゲンデ シャベルヨーニスルケド コンナトコデ シヌカト オモード
方言で 喋るようにするけど こんなところで 死ぬかと 思うと

ホント カナシーヨネ。 サビシーヨネ。
ほんと 悲しいよね。 寂しいよね。

— : まだあれだとは思いますがでも。

002A : イヤイヤ ソンナコトナイデスヨ。
いやいや そんなことないですよ。

— : 富岡はでもどうなりましたっけ。解除の見通しは。

003A : コノヒトラワ キカンコンナンクイキ。ワタシラワ カイジョジュンビ。
この人達は 帰還困難区域。 私達は 解除準備。

カイジョジュンビ デワネーナ カイジョ…… マンナカ。
解除準備 ではないな 解除…… 真ん中。

004C : オラノトコ イチバンヒクイ ヒクイダ イチバン。
俺のところ[は] [線量が]1番低い 低いんだ 1番。

005A : コッチワモー……
こっちはもう……

006C : ハヤイノナ。
早いのかな。

— : 結構場所場所で。

007A : バシヨニヨッテ チガンデス ブラグニヨッテ チガンデスヨ。
場所によって 違うんです 部落によって 違うんですよ。

008B : チョット コッチノウチトネー コンナンクイキナンテ ホント チョット
ちょっと こっちのうちとね 困難区域なんて ほんと ちょっと

サカニ ナルト コッチガワ アレニナツチャウ カンジモ アルンダヨネ
坂に なんと こっち側 あれになっちゃう 感じも あるんだよね

チョットシタ……
ちょっとした……

009C : メーデデナ メーデデ ドーロガラメーデデ。
見えてて 見えてて 道路から見えてて。

010B : ソーソー。 ホレゴソ……
そうそう。 それこそ……

011A : トナリドーシデネー コンナンクイキデ ハイ コッチワ ジュンビデ
隣同士でね 困難区域で はい こっちは 準備で

アレデスヨ キカンクイキ……
あれですよ 帰還区域……

012B : チョット ハナシユート ハチジョーノヘヤ コッチドコッチデ
ちょっと 話すると 8 畳の部屋 こっちとこっちで[違う]

ミタイナナツチャウ カンジダヨネ。
みたいになっちゃう 感じだよな。

—：あれも大変ですよ。

013A：センビキガネ ドコデ センビキ ヒーテンダガネ。 チョット
線引きがね どこで 線引き してるんだらうね。 ちょっと
イッパンヘーミンニワ ワカンナイケドネ。
一般平民には 分からないけど。

—：それでいろいろ条件とか変わっちゃうとちょっと大変ですよ。

014A：ソーデスネ。
そうですね。

—：富岡町は帰還の予定とかはもう町で立てたんでしたっけ。

015B：ソーユー アレオ スルッテユーノワ オークマガ シテタヨネ。
そういう あれを するっていうのは 大熊が してたよね。

—：大熊はなんか拠点をつくると。

016B：チャント モー ツクルッテ ユーカンジダケド トミオカワ マダ……
ちゃんと もう 作るって いう感じだけど 富岡は まだ……

017A：トミオカワ アンケート ハイッタデショー。
富岡は アンケート[が] 入ったでしょう。

018B：ハイッテタネ。 ハイッテマシタネ。
入ってたね。 入ってましたね。

019A：ヤッパリ ゴネンオ メドニ ヤッテンダト オモウゲド アノトキカラ ゴネンジャン。
やっぱり 5年を めどに やってんだと 思うけど あの時から 5年じゃん。

020C：サンネンダモンネ マダ。
3年だもんね まだ。

021A：シンサイニ ナッタトキカラ モー ゴネン ゴネンデショー。 ゴネン
震災に なったときから もう 5年 5年でしょう。 5年

ゴネンツツタラ アト ニネングライシカ ネーデショーネ。
5年っていったら あと 2年ぐらいしか ないでしょうね。

022B : アトネ サンガツニナッタラ ジュッカゲツニ ナルンデスカラ ナツタンデスカラ。
あとね 3月になったら 10か月に なるんですから なったんですから。

— : そうですね。

023A : ホントーニ クモツカム ミタイナモンデネ。 ドンナフーニ ヘンジシテイーガモ
本当に 雲[を]掴む みたいなものでね。 どんな風に 返事したらいいかも

ワカンナインジャナイデスカ クニソノモノモネ トーデンサン ソノモノモネ。
分からないんじゃないですか 国そのものもね 東電さん そのものもね。

— : でもなかなか場所によっては変にこっちよりも線量が低い郡山とか福島の方が高かったりすると
ころもありますからね。

024B : ソーナンダヨネ。
そうなんだよね。

— : そうですね。地震の震災のときはどんな感じだったんですか。結構やっぱり富岡は揺れたんですか。

025A : イヤ ユレタナンテ ユーモンジャナイデスヨ。
いや 揺れたなんて いうものじゃないですよ。

アンナノ ウマレテハジメテダヨネ ホントニネ。
あんなの 生まれて初めてだよ ほんとにね。

026B : ミンナ メーメーニネ ジカン ニジヨンジューロップン ッテユーコトワ
みんな めいめいにね 時間 2時46分 っていうことは

シゴト ヤッテタリ イロイロ ヤッパリ ベツベツダッタカラネ ソノアレワ
仕事[を] やってたり いろいろ やっぱり 別々だったからね そのあれは

スゴカッタヨネ。
凄かったよね。

027A : イヤ ウチ ツブレルカナト オモッタモンネ。
いや 家[が] 潰れるかなと 思ったもんね。

—：そうですか。

028A：ヤッパリ ホトケサンノ ハナタテトカ カミダナノ オサカギタテトカ
やっぱり 仏さんの 花立てとか 神棚の お榊立とか

オッコッテイタカラネ。 ナモンダカラ ヤッパリ エー コノウチ
落っこちていたからね。 そんなものだからやっぱり えー この家

ツブレチャウガナト オモッタ。
潰れてしまうなど 思った。

—：Cさんのところも結構揺れたんですか。

029C：ユレタ。
揺れた。

—：富岡はどれくらいだったんですかね。震度6とか7？

030A：アレ ナナツツタンジャ ナカッタ？ シンド。 シンド ロクカ
あれ 7って言ったんじゃ なかった？ 震度。 震度 6か

ナナナグライワ アツタンデショー ダッテネ。
7ぐらいは あったんでしょう だってね。

031B：ソノクライワ アルヨネ。
そのぐらいは あるよね。

032C：ソーユートコロ ヨケー ミチアッタベガラ ジシンナ。
そういうところ 余計 道[が]あっただろうから 地震な。

033B：ソーダヨネ。 ダカラ オハカノ トコロダッテ ソンナンデモナイ トコロワ
そうだよ。 だから お墓の ところだって それほどでもない ところは

コーユーカンジダケド イシガ……
こういう感じだけど 石が……

034C：ミチガ アッタ。

道が あった。

—：お墓もねなかなか倒れちゃって直せないでいるんだっていうのをよく聞きますけど。それで富岡は避難はすぐ避難になったんでしたっけ。

035B：ウジノ ホーデワ ソノ アシタダモノ。

うちの 方では その 次の日だもの。

—：場所によってですか。

036B：ジシンノトキデネーモノ ウジノホーワ ソノアシタダモノ。

地震のときでないもの うちの方は その次の日だもの。

037C：バシヨニヨッテ ヤッパリ。

場所によって やっぱり。

038A：ジューイチニニチダカラ ジューニニチノヒ。

112 日だから 12 日の日。

039C：ジューニニチ。

12 日。

—：12 日に避難しろという連絡が来て。

040C：ハヤイヒトワナハ ヒナンシッタダヨ。

早い人はもう 避難してたんだよ。

041B：ソー。 ミンナ ワカッテテネ。

そう。 みんな 分かっててね。

042A：ダカラ ナカニワネ ワカッテルヒトモ イテサ トーデンアタリニ

だから 中にはね 分かってる人も いてさ 東電あたりに

イッテル ネー ヒトラワ ワカッテルヒトガイデ ハヤバヤ ニゲタヒトモ
行ってる ねー 人達は 分かってる人がいて 早々 逃げた人も

イルシ アト アタシラナンカ アシタノアサ シチジダッタネ。 オバチャン
いるし あと 私達なんか 次の日の朝 7時だったね。 おばちゃん

ヒナンシナキャ ナンネンダッテヨッテ イワレテ ドコニイクノッテ イッタラ

避難しなきゃ ならないんだってよって 言われて どこに行くのって 言ったら

カワウチッテ イワレテ ソレデ シチジニ デタンダケド モー ドーロガ イッパイデ。
川内って 言われて それで 7時に 出ただけど もう 道路が いっぱいで。

043B : ドーロ トノサマギョーレツ ミタイナカンジデ クルマガ コー……
道路[は] 殿様行列 みたいな感じで 車が こう……
アルッタホーガ ハヤカッタ カンジナンダネ。
歩いた方が 早かった 感じなんだね。

044A : コッチデ マッテ ソレコソ トマッテルンデスカラ。
こっちで 待って それこそ 止まってるんですから。

045B : ソーソー。
そうそう。

046A : タッタ サンジップンカ ヨンジップンデ カワウチマデ イケルンデスケド
たった 30分か 40分で 川内まで 行けるんですけど

ソノカン モー トマッテル ジョータイデスカラ。 デモ
その間 もう 止まっている 状態ですから。 でも

ソノジテンデモ ヤッパリ スイソバクハツモ ワカンナイシ……
その時点でも やっぱり 水素爆発も 分からないし……

047B : アッタヨネ サンガツ ジューヨッカ。
あったよね 3月 14日。

048A : ツナミモ ワカンナカッタデス。
津波も 分からなかったです。

— : そうですか。

049A : ソーユーモン ナンダヨネ。
そういうもの なんだよね。

— : Aさんのところは津波被害はなかったんですか。

050A : ナイデス ワタシラワ タカイトコ。
ないです 私達は [標高が]高いところ。

— : そうですか。じゃよっぽどおうちはそうすると。

051A : ウチワ ヤッパリ シンサイデ ヤラレタ ジシンデ ヤラレタグライネ。
家は やっぱり 震災で やられた 地震で やられたくらいね。

— : 最初川内のほうにいらっしやったんでしたっけ。それぞれですか。

052A : カワウチニ イッタタンダケド ケッキョク イケナクテ ダメデ ダメデ
川内に 行ったんですけど 結局 行けなくて 駄目で 駄目で

タムラニ イッテ タムラモ ダメデ ソレデ ミハルニ イッテ
田村に 行って 田村も 駄目で それで 三春に 行って

ソノトキニワ モースデニ ヨルノ クジデス。 ソレデモ ミハルデモ ダメデ
その時には もうすでに 夜の 9時です。 それでも 三春でも 駄目で

コーリヤマニ イケッテ ユワレタンダケド ウチデ ヨメサンモ
郡山に 行けて 言われたんだけど うちで 嫁さんも

ホッカイドーノヒトデ ゼンゼン ワカンナイシネ ミチ ワカナイシ
北海道の人で 全然 分からないしね 道[が] 分からないし

ホイデ ミハルニ モグリコンデ ソコデ アレシタンダケド ミンナ ソーデスヨ。
それで 三春に 潜り込んで そこで あれしたんだけど みんな そうですよ。

053B : ソーダネ。
そうだね。

— : そうですか。

054A : ミンナ ソッチコッチニ イッタタンダネ。
みんな そっちこちに 行ったんだね。

— : バスなんかで一緒に移動したわけではなくて？

055A : ソンナコトナイ。
そんなことない。

056B : ワタシハ チューガッコノ タイークカンニイテ ジューイチニチノトキ
私は 中学校の 体育館に居て 11 日のとき

ソコノ タイークカン イッパイニナツテ ツギノヒニ アタシワ
そこの 体育館が いっぱいになって 次の日に 私は

キュージューサンノ ハハガ イルンデスケド ソレデ クルマニ ノツテ
93 の 母が いるんですけど それで 車に 乗って

アルバショニ イツテクダサイツテ リフレツテユートコニ イツテクダサイツテ
ある場所に 行ってくださいって リフレっていうところに 行ってくださいって

イケナイヒトワ チューガッコノ ウシロカラ バスガ デマスカラツテ
行けない人は 中学校の 後ろから バスが 出ますからって

ソシテ ソレデ イッタトキノ ソノ トーッタミチガ ホントニ
そして それで 行ったときの その 通った道が 本当に

ダイミョーギョーレツ ミダク ホントニ アルツタホーガデ。
大名行列 みたいに 本当に 歩いたほうが。

ソシテ カワウチニ ハイル トチューノトキデモ ソノトキ シロイ
そして 川内に 入る 途中のときでも そのとき 白い

×××××× イタンデス。 ソーユーヒトタチガ。 コレワナト ソンナノ
×××××× いたんです。 そういう人達が。 これはなと そんなの

アツタンデスヨネ。 ソシテ コンド ワタシタチ イケナイカラ コンド
あったんですよね。 そして 今度 私達は 行けないから 今度

ニーパッパツテユートコ トーツテ キューイシモリショーガッコニ
288[号線]っていうところを 通って 旧石森小学校に

イツタンデス。 イシモリショーガッコニ チョット イテ アト

行ったんです。 石森小学校に ちよつと いて あと

ニジカングライテ ワタシ ノセテ コンド キタコー コーリヤマキタコー
2時間くらいで 私[を] 乗せて 今度 北高 郡山北高

アソコニ カゾクガ イレバ イッショニ ナツテモ イーヨツテ
あそこに 家族が いれば 一緒に なっても いいよって

サンガツガ ヨッカカ イツカグライ イテ サンガツノ スエニナツテ
3月が 4日か 5日くらい いて 3月の 末になって

コンド ヤマナシニ イッタンデス。 ソレデ サンカゲツグライ ヤマナシニ
今度 山梨に 行ったんです。 それで 3か月くらい 山梨に

オセワニナツテ ジョーホーモ ダンダン コーネ チーチャクナツチャウジャ
お世話になって 情報も だんだん こうね 小さくなっちゃうじゃ

ナイデスカ ムコーニイクト ソレジャダメダツテ ユーワケデ
ないですか 向こうに行くと それじゃ駄目だって いうわけで

ビッグパレットニ キテ ロクガツノ スエニキテ ココノ フロアノ カセツ
ビッグパレットに 来て 6月の 末に来て この フロアの 仮設

イッカイメワネー ハハガ コーレーダカラ ハイレルツテユー ミタイナコトガ
1回目はね 母が 高齢だから 入れるっていう みたいなことが

アツタンダケド ダメダツタンデスヨネ。 ソシテ ヤメテ ココノトコロワ ヘヤガ
あったんだけど 駄目だったんですよね。 そして やめて このところは 部屋が

セマイトカ ココノセンロガ ウルサイトカッテ ユーワケデ ユツテ
狭いとか この線路が うるさいとかって いうわけで 言って

ヌケチャッタカラ イナクナル キャンセルマチデ デ ココニ ハイッテ
抜けちゃったから いなくなる キャンセル待ちで で ここに 入って

イマゲンザイニ イタルンデス。
今現在に 至るんです。

—：じゃあっちこっち本当にいろいろ……………

057A：ミンナ ソーデス。

みんな そうです。

—：浪江の方とかいろいろお話伺ったんですけどあっちこっち本当に大変だったというのがね。

058B：ワタシナンカ スクナイホーダヨネ ウゴイタノネ。 ロッカショトカ ナナカショ

私なんか 少ない方だよね 動いたのね。 6か所とか 7か所

ハチカショ コー ウゴイタッテヒトモ イルカラネ ワタシナンテ スクナイホーダネト

8か所 こう 動いたって人も いるからね 私なんて 少ない方だねと

オモイマス。

思います。

—：Cさんはどんな感じだったんですか。

059C：ワタシワネ ジューシ…… ジシンノ アシタ。

私はね 14…… 地震の 次の日。

060A：ジューニ。

12。

061C：ソन्द シナンシナカタノ バーチャンガ イッカラ ケートラサ サンニン

そんで 避難しなかったの ばあちゃんが いるから 軽トラに 3人

ノランナイガラ ダカラ シナンシナクテ イダндаゲドモ イチバンスエノ コドモガ

乗れないから だから 避難しないで いたけれど 一番末の 子どもが

ケーサツショニ デンワシテ サンジニ ケーサツデ キテ ソントキニ ムスコガ

警察署に 電話して 3時に 警察が 来て そのときに 息子が

キタワゲ。 タテヤノ ソノシト ヌセデインカラ イッショニ ノッテ ソシテ

来たわけ。 建屋の その人 乗せて行くから 一緒に 乗って そして

シラナイミジ シトバン カーマタノ…… ドゴモ ダメデ バスダガラ ダメデ

知らない道 一晩 川俣の…… どこも 駄目で バスだから 駄目で

ズット カーマタ マーッテ コンド バンダイアダミ ユラックスガ アソゴサ

ずっと 川俣[を] 回って 今度 磐梯熱海 ユラックスか あそこに

アサ ツイダノ。 デモ バーチャンワ シセズニ ハイッテッケドモ クルマノナガ。
朝 着いたの。 でも ばあちゃんは 施設に 入ってるけど 車の中[に]。

062A : オシュートサンガ イッカラ。 オシュートメサンガ。
お舅さんが いるから。 お姑さんが。

— : 年配の方は本当になんか避難は大変だったって。

063C : タイヘンダッタヨ。
大変だったよ。

064B : タイヘンダッタヨネ ホントーニ。
大変だったよね 本当に。

— : そのあとじゃこちらにいらっしゃったんですか。磐梯熱海から……………

065C : バンダイアタミデモ ヤッパリ アサ ツイデ コンド ゴゴッカラ タデヤノ
磐梯熱海でも やっぱり 朝 着いて 今度 午後から 建屋の

ソーユーイガイワ デテクダサイト。 ソシテ ヨーゴガッコーマデ イッテ
そういうの以外は 出てくださいと。 そして 養護学校まで 行って

シナンシタノ。 アブクマヨーゴガッコー。 アズグ アズグサアンダ。
避難したの。 阿武隈養護学校。 あそこ あそこにあるんだ。

ミドリガオカサ イグヨーニナッペ ×××××ノホー トーッテ
緑ヶ丘へ 行くようになるでしょう×××××の方[を] 通って

ソレデイッタノ。 ソゴサ ヨッカイズカ イデ コンド ビックパレットガラ
それで行ったの。 そこに 4日か5日 いて 今度 ビックパレットから

サイタマガラ ムガエニクッカラ ソレサ ノッテ コンド グンマニ イッタノ。
埼玉から 迎えに行くから それに 乗って 今度 群馬に 行ったの。

タクシーデ。
タクシーで。

—：タクシーで？

066C：サイタマカラ コンド。
埼玉から 今度。

067A：スゴイヨネ ソレネ。
凄いよね それね。

068C：ソーダヨ。 ダッテ イグドゴネー。 コドモダジモ フタンジ レンラグシタカラ
そうだよ。 だって 行くところ[が]ない。 子ども達も 二人で 連絡したから
ジブンワ ワガンナイ。 オッキーノド チッチャイノド ホレ グンマサ イッカラ
自分は 分からない。 大きいのと 小さいのと ほら 群馬に いるから
ムスコ。
息子[が]。

069A：コドモガネ ミンナネ。
子どもがね みんなね。

—：なるほど。

070C：コドモガ レンラグシテデ ナンジコロ イグト。
子どもが 連絡していて 何時頃に 行くと。

071A：コドモトカ シンセギ イデワネ。
子どもとか 親戚 いたらね。

072C：デ タクシー ヨバッテ。 ソノコロワ テーデンデ マックラ……
で タクシー[を] 呼んで。 その頃は 停電で 真っ暗……

トーッテ アルグニ マックラダッタヨ。 アノコロ セツデンダッタカラ。
通って 歩くのに 真っ暗だったよ。 あの頃 節電だったから。

クライドゴダッタ。 ソシテ ニカゲズハンイデキタノ グンマニ。 ヤッパリ ジョーホーガ
暗いところだった。 そして 2ヶ月半いて来たの 群馬に。 やっぱり 情報が

ワガンナイガラ バーチャンモ コッチガワサ イルシ ンダガラッテ コッチノホーサ
分からないから ばあちゃんも こっち側に いるし だから こっちの方に

キタノ。
来たの。

—：やっぱり県外に出られても戻ってくる方って結構いらっしやったんですねそうすると。

073A：ミンナ モドッテ キマシタネ。
みんな 戻って きましたね。

—：そうですか。

074C：ジョーホーガ ワガンナイガラ。
情報が 分からないから。

075B：ジョーホーガ ワガンナイガラ ヤッパシ ケンナイニ イヨーッテユー
情報が 分からないから やっぱり 県内に いようっていう

カンジニ ナッチャイマスネ サイシューテキニワネ。 ダンダン……
感じに なっちゃいますね 最終的にはね。 だんだん……

076A：ダイタイ モドッテルヨネ。 ミンナワ モドッテナイデスケド。
大体 戻ってるよね。 みんなは 戻ってないですけど。

077B：ダイダイワ コーキテネ モドッテクル。
大体は こう来てね 戻ってくる。

—：やっぱり役場がないと大変ですもんね情報とかね。なんかなんでしたっけ……そうそう富岡は……。

078C：タブレット。
タブレット。

—：タブレット。

079A：タブレットナンカ ミタッテ サッパリ ワカンナイダケド アレ。
タブレットなんて 見たって さっぱり 分からないんだけど あれ。

—：そうなんですか。

080C : ワタシラワ ダメダゲンチヨ ワカイヒトワ ワガンダベ。 ヤッパリ
私達は 駄目だけれど 若い人は 分かるんだろう。 やっぱり

ケンガイサ イッカラ コドモサ イッカラ ソレ ミデンデネーノ。
県外に いるから 子供が いるから それ[を] 見てるんじゃないの。

— : どこか押すと……

081A : タブレット アレ ヤリカタ アンダ アレネ。 アタシモ アンマリ
タブレット あれ やり方が あるんだ あれね。 私も あんまり

ワカンナイモンダカラ ターダ ミテル。 ドーガッテ オストサ ギカイノ
分からないものだから ただ 見てる。 動画って 押すと 議会の

ソーユーノ デテクンデスヨ。 ソーユーノ キーテ ナンカ シテンダケド。
そういうの 出てくるんですよ。 そういうの 聞いて なんか してるんだけど。

— : そのどこか押すと町のそういう情報が出てくるとか。

082A : アルンデス。 デモ アンマリネ アレ ツカイガダ ヘダナンダ
あるんです。 でも あんまりね あれ 使い方が 下手なんだ

デキナインダヨネ。 ヨク ヨマナイガラ。 ヨメバイーンダケド ヨマナイカラ。
できないんだよね。 よく 読まないから。 読めばいいんだけど 読まないから。

— : でもあれわからないですよ。私も実はだめなんですけどああいうの。

083A : タダ オシテミデサ イベントトガ ナントガ イベント アリマセントカサ
ただ 押してみても イベントとか なんとか イベント ありませんとかさ

イロイロ デテクンダ。 ギカイノコト キキタイナート オモート オスト
色々 出てくるんだ。 議会のことを 聞きたいなと 思うと 押すと

チャント デテクルカラ ソースット モー ダレダレギインガ イロイロ
ちゃんと 出てくるから そうすると もう 誰々議員が 色々

シャベッテルノ キコエンデスヨ。
喋っているのが 聞こえるんですよ。

—：なるほどね。そうですか。じゃあんまり役に立っていないんですね。

084C：トシヨリニワ ダメダ。
年寄りには 駄目だ。

085A：トシヨリニワ ムリ。
年寄りには 無理。

福島県被災地方言自由談話

— 双葉郡富岡町 —

[収録場所] 郡山南一丁目仮設住宅内

[話者] A(中年層女性), B(高年層女性), C(中年層女性)

[調査者] 福島大学学生

007C : ウチノ トミオカニ スンデタトキニ オバーチャンガ××××××
うちの 富岡に 住んでいたときに おばあちゃんが××××××

トナリニ スンデテ ソダッタンデ イロリガ アッタンデスヨ。 デ イロリデ
隣に 住んでいて 育ったので 囲炉裏が あったんですよ。 で 囲炉裏で

ゲンダイワ モー コタツナンデスケド オバーチャンワ ワタシガ コドモノ コロニ
現代は もう こたつなんですけど おばあちゃんは 私が 子供の 頃に

ウチノ コタツデワナクテ イロリデ セーカツシテタンデスケド ソレデ ヨク
うちの こたつではなくて 囲炉裏で 生活してたんですけど それで よく

ウチノ チチモ ムカシノ ハナシオシテテ ソレデ センソーノ ハナシニナッテ
うちの 父も 昔の 話をしている それで 戦争の 話になって

タベモノモ タベレナイ ソーイッタ ジダイオ スゴシテキタコトオ イツモ ツネニ
食べ物も 食べられない そういった 時代を 過ごしてきたことを いつも 常に

イッテイテ チョット イロリデ マメオ ヤイテ タベルンデスケド ソレガ パチット
言っていて ちょっと 囲炉裏で 豆を 焼いて 食べるんですけど それが パチっと

コー ヤケテ トブンデスケドソレデ ヨク カンカチ ヤケドオ ソレオ ツネニ
こう 焼けて 飛ぶんですけどそれで よく 「カンカチ」 火傷を それを 常に

ナンカ ヤッパ ココオ ハシリマワ…… アタシタチガ ハシリマワッテ アソンデイルト
なんか やっぱりここを 走りまわ…… 私達が 走り回って 遊んでいると

イツモ ヤケド カンカチ スルゾナンテ チーサイコロニ イワレマシタネ。
いつも やけど 「カンカチ」 するぞなんて 小さい頃に 言われましたね。

イマモ トミオカニネ カエルト オジーチャン オバーチャンガ スンデタノガ
いつも 富岡に 帰ると おじいちゃん おばあちゃんが 住んでいたのが

マダ イロリガネ ノコッテルンデ。
まだ 囲炉裏がね 残っているの。

— : カンカチ？

008A : カンカジ。 カンカジスッカラ ナンテ ヨク ユワレテ。 ソー。
カンカジ。 「カンカジスッカラ」 なんて よく 言われて。 そう。

009C : アリマシタネ。
ありましたね。

010B : ワタシモネ トミオカニ キテ コレ ハジメテ ツカッタデスヨ。
私もね 富岡に 来て これ 初めて 使ったんですよ。

011A : イワキワ ツカワナイヨネ。
いわきは 使わないよね。

012B : イワキノ ホーワ ヤケドッテ ユッタダケド ナニ ユッテンノガナド
いわきの 方は やけどって 言ったんだけど 何 言ってんのかなと

オモッタドギ アッタモンネ。
思ったこと[が] あったものね。

013A : ワカンナイヒトワ ソーデスヨネ。 ナニオ ユッテルンダロー ッテユーノ アリマスヨネ。
分からない人は そうですよ。何を 言ってるんだろう っていうの ありますよね。

014B : ヤガンニ サワンナ ドガネ。
「ヤガンニ サワンナ」 とかね。

015A : カンカジ スッカラ ドガネ。
「カンカジ スッカラ」 とかね。

—：じゃ耳にするだけでご自身ではおっしゃらない。

016B：ハジメワ ユワナカッタネ。ワタシ イワキニ ソレ ニジューニネンクライ
初めは 言わなかったね。私 いわきに それ 22年くらい

イダモンデスカラ。
いたものですから。

—：じゃいつの間にか富岡に来て言うようになりましたか。

017B：ヨースルニネ シゴトノ カンケーデ テンキンガ オーカッタモンデスカラ
要するにね 仕事の 関係で 転勤が 多かったものですから

タトエバ ソーマニ イツタリ ハラマジニ イツタリスツト ミヤギケンニ チカイト
たとえば 相馬に 行ったり 原町に 行ったりすると 宮城県に 近いと

マタ ソーマニ イグドネ ミヤギケンノ ンダッチャナンテ ナッカラネ
また 相馬に 行くとね 宮城県の 「ンダッチャ」なんて なるからね

ナマリカタガ ミンナ カワッテ クルモンデスカラ デ
訛り方が みんな 変わって 来るものですから で

ダンダン ミナミンクット マダネ ナニ ユッテンダナンテ ナッカラ
だんだん 南へ来ると また 何 言ってるんだなんて なるから

ミヤギケンノ ホーゲンオ イッチャウド。 ダカラ ウマレデ ゲンザイマデ
宮城県の 方言を 言っちゃうと。 だから 生まれて 現在まで

ゲンザイッチャネーゲントモ トミオカソダチノヒトトネ ワタシラドワ チョット
現在ってはないけど 富岡育ちの人と 私達とは ちょっと

ヤッパリ ホーゲンモ マタ カワッテクンデスヨネ。
やっぱり 方言も また 変わってくるんですよね。

—：方言というか使っている言葉が通じなくて困ったこととかってというのはありますか。

018A：ワタシタチワ ソーデモナイケド イマノ ワカイヒトワ ワカラナイ カモシレナイデスネ。
私達は そうでもないけど今の 若い人は 分からない かもしれないですね。

ソーユー キタナイコトバワ ヤメマショー ミタイナネ ッテユワレマスカラネ。

そういう 汚い言葉は やめましょう みたいなね って言われますからね。

—: そうですね。じゃやっぱり同年代よりも年下の人たちとしゃべるときに方言だとちょっと通じないかなみたいな。

019A: ウン ソレワ アルネ。 ヤッパリ ジブンラノ ネンダイトネ チョット シタニナルト
うん それは あるね。 やっぱり 自分達の 年代とね ちょっと 下になると

ヤッパリ ナニ? ミタイナ。 ワタシラワ ヨク オーバーサンニ オマエトカッテ
やっぱり 「何?」 みたいな。 私達は よく おばあさんに お前とかって

ユーノワ ニシヤラワ ナンテ ヨク ユワレルヨネ。 オマエラッテユワネデ
いうのは 「ニシヤラは」 なんて よく 言われるよね。 お前らって言わないで

ニシヤラワ ナンテ ヨグ ワタシモ オーバーサン オジーサンニ オコラレ……。
「ニシヤラは」 なんて よく 私も おばあさん おじいさんに 怒られ……。

ニシヤラッテ ユートキワ モー オマエタチトカッテユー コトバ
「ニシヤラ」って 言うときは もう お前達とかっていう 言葉

「ニシヤラワ ナニ ヤッテンノ イツモ」 ミタイナ 「ベンキョーモ シナイデ」
「ニシヤラは 何 やってんの いつも」 みたいな 「勉強も しないで」

ナンテ ヨグ アノ コヤ ワラゴヤニ オッカケラレテネ オゴラレタゴドアルンデス。
なんて よく あの 小屋 わら小屋に 追いかけてね 怒られたことあるんです。

020B: ダガラッテ オレワ コドモニ ソーユーコトバ ツカエネーッスネ。
だからって 俺は 子どもに そういう言葉[は] 使えないですね。

021A: デモ ワダシネ ワゲワガンネドギニ 「ニシヤラワ」 ッテユーガラ
でも 私ね わけがわからないときに 「ニシヤラは」 って言うから

「オカーサン ソノコトバ ヤメデ」 ッテユワレットギ アンノネ。
「お母さん その言葉 やめて」 って言われることが あるのね。

シタノコワ ニシヤッテナーニッテ ヤッパリ キクノネ。 シタノコワ
下の子は 「ニシヤって何?」って やっぱり 聞くのね。 下の子は

ワカンナインダケド ニシャテ オマエタチノ コトオ ニシャッテ ムカシノ
分からないんだけど 「ニシャって お前達の ことを ニシャって 昔の

オバーサン オジーサンワ オカーサンラノ ネンダイノトギニ ユッタダヨ
おばあさん おじいさんは お母さん達の 年代のときに 言ったんだよ」

ナンテ イッテモ ポワーッテワ シテルネ。
なんて 言っても ぼわーっては してるね。

ヤッパリ コドバガ ツーヅナイガラ ソコデモー キレチャウ ミタイナ。
やっぱり 言葉が 通じないから そこでもう 切れちゃう みたいなの。

022C : ダンダン ウスレテキテルヨネ。
だんだん 薄れて来てるよね。

023A : ウスレテキタ。 ワタシモ タマーニ ニシャラーッテ ユーゲド。
薄れてきた。 私も たまに 「ニシャラー」って 言うけど。

— : (機材の不調で)すみません。なんかもう。

024B : イーデスヨ。 セッカグ イーキカイ モッテキタンダカラ。
いいですよ。 せっかく いい機械[を] 持ってきたんだから。

025C : コノ ナニナニサッテユーノ ケッコー トカイノカタガ ユーカタガ オーイデスヨネ。
この 「何々サ」って言うの 結構 都会の方が 言う方が 多いですよ。

ヨコハマノヒトナンカ ナニナニサーッテネ。
横浜の人なんか 「何々サー」ってね。

026B : ウン。 コレワネ ワタシ アノ リトートカネ ヤッパリ ミナミニ イッテ
うん。 これはね 私 あの 離島とかね やっぱり 南に 行って

オボエテキタンダカモ シンニンダヨナ。 チチオヤラドゴニ イタカラ。
覚えてきたのかも しれないんだよな。 父親達のところに いたから。

027A : サートワ アンマリ ツカワナイヨナ。
「サー」とは あんまり 使わないよな。

028C : ネー ウン。
ねー うん。

029A : ンダガードガ ソーゲードガワネ ゲードガ ガードガワ ツカウゲド。
「ンダガー」とか 「ソーゲー」とかはね 「ゲー」とか 「ガー」とかは 使うけど。

ンダガ チガベー ドガネ。
「ンダガ チガベー」 とかね。

— : 「ベー」は俺達もつかうよね。

— : もうしょっちゅう。

— : 「何とかダベ」とかね。「ダッチャ」とかね。

030C : コドモサンワ アンマ ツカワナイデスヨネ。
子どもさんは あんまり 使わないですよ。

031A : イマノ コドモサンワ ツカワナイネ。 ワタシラノトギ タマーニ
今の 子どもさんは 使わないね。 私達のとき たまに

ポロット ユートギ アッテ ソレワ ヤメマショー ミダイナ
ぼろっと 言うことが あって それは やめましょう みたいな

ダンナニモ ソレワ ヤメマショーナンテ。
旦那にも それは やめましょうなんて。

032B : ンダネ。
そうだね。

— : ふだんはあんまり使わないように。

033A : ソー。 スト オーバーサントカ ホラ コーレーシャノヒトト シャベルト
そう。 すると おばあさんとか ほら 高齢者の人と 喋ると

ヤッパリ ソーユー ムカシノ コトバガ ポロツテ。
やっぱり そういう 昔の 言葉が ぼろって[出てしまう]。

—：でもやっぱり自分より下の方たちにはそういうこと言わないあんまり汚いからそんなこと言わない
でとか言われちゃうので。

034A：ソーダネ。
そうだね。

—：それは震災前とかと比べたら。

035A：ツカワナクナ…… イヤ シンサイマエワ ツカッテタケド シンサイニ ナッテカラワ
使わなくな…… いや 震災前は 使ってたけど 震災に なってからは

ヤッパリ ツカワナイヨネ。 「ベ」ドガ ヤッパリ コーリヤマニ ヒナンシテルッテ
やっぱり 使わないよね。 「ベ」とか やっぱり 郡山に 避難してるって

ユーノガアッテ コー ナマルト ヒナンミンカナ ミタイナメデ メセンデ ミラレルカラ
というのがあって こう 訛ると 避難民かな みたいな目で 目線で 見られるから

ナルベク ソノ コトバワ ダサナイヨ。 ダケド シッテルヒトニ
なるべく その 言葉は 出さないよ。 だけど 知ってる人に

「ンダガイ。ゲンキダッタガー」ドガ 「ンダベ」ドガッテ スグネ ソーユーコトバワ
「ンダガイ。元気だったガー」とか 「ンダベ」とかって すぐね そういう 言葉は

デルケド ナルベクダッタラ ツカワナイヨーニ チューイワ シテルンデスケド。
出るけど なるべくだったら 使わないように 注意は してるんですけど。

036C：ンダネ。 ウチノ コドモモ ヤッパリ チューガッコー ニネンナンデスケド
そうだね。 うちの 子どもも やっぱり 中学校 2年なんですけど

コトバニ ヤッパリ ハマニ イルトキヨリ キオツケテ アノ ガッコーデ ヤッパ
言葉に やっぱり 浜に いるときより 気を付けて あの 学校で やっぱり

コトバズカイ ヤッパ コーリヤマニ ナジムッテユーカ ソーイッタ コトバデ
言葉遣い やっぱり 郡山に 馴染むっていうか そういった 言葉で

ツカウヨーニ シテルミタイデス ヤッパリ。

使うように してるみたいです やっぱり。

037A : コドモワ キオツカウツツツテマシタネ ガッコーデ。
子どもは 気を使うって言ってましたね 学校で。

038C : ハイ。
はい。

— : お子さんたちの間でもそういうふうに。

039A : ナンカ キーツカウ ミタイ。
なんか 気[を]使う みたい。

040C : ヒナンミンワ ヤッパ オコサンワ スクナインダヨネ クラスデ。 デ モー
避難民は やっぱり お子さんは 少ないんだよね クラスで。 で もう

カゾエルグライシカ イナイカラ ヤッパ ドーシテモ メダッチャウノネ コトバデ。
数えるくらいしか いないから やっぱり どうしても 目立っちゃうのね 言葉で。

ダカラ ヤッパ ソノ コーリヤマノ オトモダジト ヤッパリ ナカマニナツテ
だから やっぱり その 郡山の お友達と やっぱり 仲間になって

スゴシテイタイノデ ヤッパ ナジンデイクヨーニ ッテイッテ コトバワ ヤッパ
過ごしていたいので やっぱり 馴染んでいくように って言って 言葉は やっぱり

キレーナ…… ウン ソー エランダ。
綺麗な…… うん そう 選んで。

041A : エランダ シャベル。 キオツカイナガラ ダヨネ。
選んで 喋る。 気を使いながら だよ。

042C : ソー。 シテマス。 デ ワダシナンカモ コドモト カイワシテテモ ヤッパ
そう。 してます。 で 私なんかも 子どもと 会話してても やっぱり

ナンツーカ コドモニ ワレマスネ オカーサン ソノコトバワ イマワ
なんていうか 子供に 言われますね 「お母さん その言葉は 今は

コーリヤマ ナンダガラ。
郡山 なんだから。

043A : ワカルワカル。
わかるわかる。

— : そういうふうには話さないでって。あー。やっぱそうなんですね。

044A : ソーダヨネ。イエデ シャベッテルト ホラ ミンナネ オヤゴダガラ イーンダゲド
そうだよ。家で 喋っていると ほら みんなね 親子だから いいんだけど

ヤッパリ ソトニ デルト ヤッパリ キオツカウ نداヨネ コドモデアローガ
やっぱり 外に 出ると やっぱり 気を使うんだよね 子どもであろうが

オトナデアローガ……
大人であろうが……

— : ここら辺の皆さん、もともと地元が近い方たちとおしゃべりするときは、やっぱり。

045A : デル。キオツカワナイ カラダヨネ タブン。 シッテルドーシダカラ モー ワー
出る。気を使わない からだよ。多分。知っている同士だから もう 「わー

ヒサシブリーナンテ ゲンキダッタゲー ナンテ ンーゲンキダヨ カワンネードー
久しぶりーなんて 元気だったゲー」なんて 「んー元気だよ 変わンネードー」

トガネ ドー ドカッテユーケド ヤッパリ ソレガ モー トモダチト サルト
とかね 「ドー」 とかって言うけど やっぱり それが もう 友達と 去ると

ヤッパリ ピシット シッテルヒトニワ コーリヤマデ トモダチニナッタヒトワ
やっぱり ぴしっと 知ってる人には 郡山で 友達になった人[に]は

コンニチワナンテネ ユーケド ガラリト ヤッパリ テンカイスルトコガ アリマスネ。
「こんにちは」なんてね 言うけど がらりと やっぱり 展開するところが ありますね。

— : 今はそういう状況になっちゃって大変だなとかもうちょっと方言で話したいなとか思うことはありますか。

046A : ホーゲンテユーノワ ナイケド ヤッパリネ ムカシノ コトバワネ ツカイタイケド
方言っていうのは ないけど やっぱりね 昔の 言葉はね 使いたいけど

ヤッパリ ツカイタイケド シャベラレナイッテユーノガ チョット ツライトコガアルカナ
やっぱり 使いたいけど 喋れないっていうのが ちょっと 辛いところがあるかな

ミタイナ。

みたいな。

— : 気を使ってしゃべらないと。

047A : ソー。 イエノナカニ ハイルトキワ モーネモー カゾクダガラ モー アラユル
そう。 家の中に 入る時は もうねもう 家族だから もう あらゆる

ドンナ コトバモ エラバナイデ シャベレルケド ヤッパリ ソトカラ カセツカラデレバ
どんな 言葉も 選ばないで 喋れるけど やっぱり 外から 仮設から出れば

チョットネ。 イチオーホラ ココワ ミンナ トミオカトカ カワウチダカラ サホドデワ
ちょっとね。 一応ほら ここは みんな 富岡とか 川内だから さほどでは

ナインデスケド ヤッパリ カイモノトカ ソトデルト ヤッパリ コトバモネ カラダモ
ないんですけど やっぱり 買い物とか 外に出ると やっぱり 言葉も 体も

シャキート ヤッパリ シンケーツカートコガ アルカナッテ。
しゃきっと やっぱり 神経[を]使うところが あるかなって。

— : 郡山の人たち結構言葉遣いきれいだなとかなんか違うなという感じはわかりますか。

048A : ナンカ コーリヤマノ ヒトトモ ワタシ コーリユーシテルトキ アルンデスケド
なんか 郡山の 人とも 私 交流することが あるんですけど

ワカラナイ コトバガ アリマスネ ヤッパリ。デモ コレナーニッテ キクノモ
分からない 言葉が ありますね やっぱり。でも 「これ何？」って 聞くのも

チョット キキズラクテ アトカラ シッテルヒトニ アノコトバ ナンダッタノッテユコト
ちょっと 聞きづらくて 後から 知っている人に あの言葉 何だったのって言うこと

アーソーカ ハマトネ ナカドーリト ハマドーリノ コトバガ チガウカラ
ああそうか 浜とね 中通りと 浜通りの 言葉が 違うから

ワカンナイヨネートカッテ。
分からないよねとかって。

—：やっぱり郡山の方と話すときはやっぱり共通……………普通の。

049A：フツノ ソーデス。
普通の そうです。

—：気をつけますかやっぱり。

050A：ヤッパリ キオツケマス。ナマルカラネ ハマニイルト ベーッテユーノガナ
やっぱり 気を付けます。訛るからね 浜にいと 「ベー」っていうのかな

ナマルト チョット シツレーカナッテユーノモ アルノモアルシ。
訛ると ちょっと 失礼かなっていうのも あるのもあるし。

—：最近郡山の方ともお話しする機会があるとおっしゃっていましたがこれまで震災前よりも顔見知りじゃない方と話す機会って増えましたか。それまでのかわりがなかった人とおしゃべりするようになりましたか。

051A：ドーダロー。 ソンナニワ フェテナイデスネ。
どうだろう。 そんなには 増えてないですね。

—：やっぱり地元の言葉で話しづらいというもの。

052A：…………ノモアルケド。
…………のもあるけど。

—：やっぱり気を使いますもんね。いつも大学に行っても私すごいいつもなまっちゃうんですけどどうしようかなって。どうやってこの女の子としゃべればいいのかとか。こんなにきれいな話し方できないんだけどどうしようって。

053A：ズーズーベンニ ナルカラネ。
ズーズー弁に なるからね。

—：そうなんですよ。もうひどくてなまってるよってたまに言われてごめんって。

054B : ヤッパリ ハマニ チカイヒトト ナカドーリニ イルヒトデワ ダイブ チガーガラネ。
やっぱり 浜に 近い人と 中通りに いる人では だいぶ 違うからね。

イシノマキモ ヤッパリ ハマニ チカイデショーガラ。
石巻も やっぱり 浜に 近いでしょうから。

ー : 浜だから仙台の人なんかと比べたらすごいですよ。

055B : ソーデスヨネ。ワタシラモ リョコーニイグド ヤッパリ××××××リクゼンタカダドガ
そうですよね。私達も 旅行に行くと やっぱり××××××陸前高田とか
イシノマキノホーニ イッタケドモ ヤッパリ コー チョットネ ワカンナイコトバ
石巻の方に 行ったけども やっぱり こう ちょっとね 分からない言葉[を]

ダイブ ユワレッカラ。 ハマワ ドクトクノネ コトバワ。
だいぶ 言われるから。 浜は 独特のね 言葉は。

056A : ドクトクノ コトバナндаヨネ。ナマルンダヨネ。
独特の 言葉なんだよね。 訛るんだよね。

057B : ソーソー。
そうそう。

058B : デモネ フタバゲン トクニ トミオカアタリワネ ショージュンゴニ チカイデスヨネ。
でもね 双葉郡 特に 富岡あたりはね 標準語に 近いですよ。

ワダシ アノ ジェーアールニ イタモンデスカラ ケンシューニ イグドネ
私 あの JR に いたものですから 研修に 行くとね

ワガンナイノガネ アオモリケン トクニ クマモトケン。 マズ ナニ ハナシテッカ
分からないのがね 青森県と 熊本県。 まず 何[を] 話してるか

ワガンネンダガラ。 ホントニネ。 ホンデモ ツージンダヨネ。 クマモトケン
分からないんだから。 本当にね。 それでも 通じるんだよね。 熊本県と

アオモリケンノヒト ハナスド。 ナニユッテッカ オレニワ ワガンナイガラ。 ホントニ
青森県の人 話すど。 何[を]言ってるか 俺には 分からないから。 本当に

ホーゲンワ オーイネ ムゴーワネ アオモリケン アダリダドネ アキタトガネ。

方言は 多いね 向こうはね 青森県 あたりとあとね 秋田とかね。

—：そうですね。あっちに行くほど凄いですもんね。

—：さっき郡山にいらっしゃって若い方とかにはやっぱり方言がわからないんじゃないかというようなことをおっしゃっていたのですけれども、ほかに何か嫌な思いとか、直接「なまってるよ」とか言われたこととかというのはありますか。こっちの方とかに。

059A：ユワレタコトワ ナイネ コトバ エランデ シャベルカラ。
言われたことは ないね 言葉[を] 選んで 喋るから。

060B：ネンレーテキニ A サント C サンハ ワガイガラ アンマリ デナインデスヨ。
年齢的に Aさんと Cさんは 若いから あんまり 出ないんですよ。

オレワネ タマニ デッチャウンデスヨ。コーリヤマシノ ヒトト ヤッパリ
俺はね たまに 出ちゃうんですよ。郡山市の 人と やっぱり

コーリヤマケーサツショノ ヤッパリ ショータイデ ジップンクライ モジジカン
郡山警察署の やっぱり 招待で 10分くらい 持ち時間

モラーレルモンデスカラ オハナシ シナカナインデスヨ。 デ ヤッパリ ホーゲン
もらえるものですから お話 しなければならないんですよ。で やっぱり 方言[が]

デッチマウンデスネ。アルヒトニ ナニユッテンダッテ イワレタトキ アンデスネ。
出てしまうんですね。ある人に 「何言ってるんだ」って 言われたことが あるんですね。

061A：アーソーナノ。
ああそうなの。

062B：コトバガ ワガンナイトテ ヤレテ。
言葉が 分からないって 言われて。

063C：ハジメテ キータ。
初めて 聞いた。

064B：ヤッパリコー ジブンデワ アレダгентトモ デッチャーンダネベネ。
やっぱりこう 自分では あれだけど 出ちゃうんだろうね。

065A : ジブンワ チャント シャベツテルツモリ ナンダロート オモウンダケドネ ヤッパリ
自分は ちゃんと 喋っているつもり なんだろうと 思うんだけど やっぱり

キイテルヒトワ ナニ？ト オモウンデスヨネ。 ヤッパリ ホーゲンガ チガウガラネ。
聞いている人は 「何？」と 思うんですよね。 やっぱり 方言が 違うからね。

福島県被災地方言自由談話

— 相馬市 —

[収録場所] 相馬市北飯淵応急仮設住宅内

[話者] A(高年層男性), B(高年層男性), C(中年層男性), D(高年層男性)

[調査者] 半沢康, 小林初夫

— : 試験操業にお出になっているんですね。

001B : ×××××ノホーガ アクマデ シケンソーギョーデ。
×××××の方が あくまで 試験操業で。

002C : シケンソーギョーモ アグマデモ ソゴビギダゲダガラ オッキーフネダゲ。
試験操業も あくまでも 底引きだけだから 大きい船だけ。

ウジラワ エンガンノ コガダ リョーシワ イマントゴ マダ サイカイノメド
うちらは 沿岸の 小型 漁師は 今のところ まだ 再開のめど[が]

タッテネーガラ。
立ってないから。

003A : サンプルダベ。
サンプルでしょう。

004C : アグマデモ サンプル サンプルエーギョー。
あくまでも サンプル サンプル営業。

— : あれだったですね。がれき片づけとかそっちのほうの仕事。

005A : アクマデモ ガレキ。
あくまでも がれき。

— : そういうお仕事するということですね。

006C : ヨグ ンダガラ ユワレンノヨ オラモ。
よく だから 言われる 俺も。

シケンソーギョー ハジマッテ ヨガッタデスネッテ。
試験操業 始まって 良かったですねって。

007A : ガレギ ウミノ ガレキトリ イマ ハジマッタ。
がれき 海の がれき取り[が] 今 始まった。

— : あのときにそのがれき取りの仕事が続くようになったんですか。続けてますか。

008A : イマントゴ コンド アレ キョネンカラ キョネンノイズダ ジューニガズガ
今のところ 今度 あれ 去年から 去年のうちだ 12月が

ネグナッテハ。
なくなって もう。

009B : ジューイジガズノ スエダ。
11月の 未だ。

010A : ジューイジガズノ スエガラワ ヨサンガ ネグナッテ ホシテ ミンナ ターダ
11月の 末からは 予算が なくなって それで みんな ただ

プラプラ プラプラッテ インノヨ。
ぷらぷら ぷらぷらって [仕事もしないで]いるのよ。

ホシテ ホレ シゴトモナイガラ コンド メーメーニ ホンダラ オガノシゴド
それで ほら 仕事もないから 今度 めいめいに それなら 陸の仕事[を]

サガシテ ホシテ イマ ヤッテル ゲンザイナンド。コレガ イジバン ガッカリスンノヨ。
探して それで 今 やってる 現在なんだ。これが 一番 がっかりするのよ。

011C : ナー。ケッキョグ タダ イランニベシタ ヤッパリ。
なー。結局 ただ [仕事もしないで]いられないでしょう やっぱり。

— : そうですよ。

012C : カラダ アマスト カラダノタメニモ ナンネベシ。
体を 使わないでいると 体のためにも ならないだろうし。
ナニガ ホレ シゴド アッコッチャ シゴド ヤリダイツツーノガ。
何か ほら 仕事[が] あるなら 仕事[を] やりたいっていうのが。

013A : ンダ。 ナンニモ ネーнда コノ フナガダッテーノワ ウミサ イッテ
そうだ。 何にも ないんだ この 船方っていうのは 海へ 行って

フネサ ヌッテ ウミサ イッテ サガナ トンノガ フナガダノ マー リョーシノ
船に 乗って 海へ 行って 魚[を] 獲るのが 船方の まあ 漁師の

シゴドナンダヨナ。 コイズ オガサ アガッタッテ ナンニモ サンニンダ。
仕事なんだよな。 それ 陸に 上がったって 何にも できないんだ。

スゴドナクテ ワガンネンダヨナ。 ウミノ シゴドダゴッチャ ナンデモ
仕事[が]なくて だめなんだよな。 海の 仕事だったら 何でも

ワガッケンチモ オガノ シゴドワ ホントニ ズブノシロートナンダ。
分かるけど 陸の 仕事は 本当に ずぶの素人なんだ。

014B : ヨンジューネンノウエモハ コーイグ シミコンダガラナ カラダサハ。
40年以上ももう こういう風に しみ込んだからな 体に。

— : そうですよ。

015B : イマサラ ホノ…… ダーラ イマ ツトメデンダгентモ
今更 その…… だから 今 勤めてるんだけど

アサ シチジハンカラガ バンカタノ ヨジハンマデ ナガインダ コレガ。
朝 7時半から 夕方の 4時半まで 長いんだ これが。

016C : フナカダノ バーイワ ヤッチマエバ オワリッテユー イミダガラ。
船方の 場合は やってしまえば 終わりっていう 意味だから。

タダ オガノ バーイワ ホレ ハジジッカラ ゴジッテユー ホレ スパン
ただ 陸の 場合は ほら 8時から 5時っていう ほら スパン[が]

アッカラ ソレデ ホレ カラダ ホレ ウマグナー ソノジカンニ アワセテ

あるから それで ほら 体[が] ほら 上手になあ その時間に 合わせて

ヤンナグッチャ イゲネンダゲンチモ ヤッパ ホイズガ ナガナガ デキネンダヨ。
やらなければ ならないんだけど やっぱり それが なかなか できないんだよ。

017A : ダッテ オガサ ツトメット ヒマガ ナイノナ。 アド チョゴット ヨータスナンカ
だって 陸で 勤めてると 暇が ないのな。 あと ちよつと 用足しなんて

ユーゴドワ デギナイノナ。 アド ゲズヨービガラ キンヨービマデナ。 トゴロガ
いうことは できないのな。 あと 月曜日から 金曜日までな。 ところが

フネワ アサハヤグ ジューニジニ オギダッテ ソノヒノ ジューニジコロ
船は 朝早く 12時に 起きても その日の 12時頃

オワッカラ ホレ。
終わるから ほら。

018C : オヒルマエニワ オワッカラ。
お昼前には 終わるから。

019A : ホッデ チョゴット ヒルネシテ バンカタガ ヨータシサ アルガッチャノヨナ。
それで ちよつと 昼寝[を]して 晩方が 用足しに 行けたのよな。

ホイズガ ホレ ヨンジューネンモ ヨンジューゴネンモ ホーユー セーカズ
それが ほら 40年も 45年も そういう 生活[が]

シミコンデッカラ オガノ シゴドッテワ ヒドイ。 ホントニ ヒドイド オレワ
しみ込んでいるから 陸の 仕事というのは つらい。 本当に つらいと 俺は

オモッテル。 タガガ イジマンエン モラウニ ホントニ イジマンエンチャ
思ってる。 たかが 1万円 貰うのに 本当に 1万円では

タイヘンダナド オモーナ。
大変だなと 思うな。

020B : ホシテ オガノ シゴドノ バアイワ ホレ イマユッタッタナ カンレンスッケンチモ
そして 陸の 仕事の 場合は ほら 今言ったのと 仮眠するけど

ジュージガンテワ ナイベ ダンタイデ ヤッテッカラ。 コジンデ ネーガラ。
自由時間というのが ないでしょう 団体で やっているから。 個人では ないから。

フネノ バアイワ コジンダガラ ホレ。 ホンダガラ ジュージガンナンカ イズデモ
船の 場合は 個人だから ほら。 それだから 自由時間なんか いつでも

ツグラレンノヨナ。 オガノ バアイワ ナンジューニント ホレ グループ クンデ
作れるんだよな。 陸の 場合は 何十人と ほら グループ[を] 組んで

ヤッテッカラ オレ ヨーアッカラ チョゴット インカラナンカ ホーユーゴドワ
やっているから 俺 用[が]あるから ちょっと 行くからなんて そういうことは

サンニンダ。
できないんだ。

021A : マズ イジマンエン カゼグッチャ タイヘンナコドダド オレワ オモッテル
まず 1万円 稼ぐというのは 大変なことだと 俺は 思ってる

ホントニ イマ。
本当に 今。

022C : ツグズグ オモーネ。
つくづく 思うね。

023A : イマ ゲンザイ ツトメテッケント。
今 現在 勤めているけど。

024D : ホレ カイシャツターノワ ミヤズガエダベシタ。
ほら 会社っていうのは 宮仕えじゃないですか。

ミヤズガエツターゴドワ ケッチョグ ホレ ズガンガラ ズガンマデ ピッタシダベシタ。
宮仕えっていうことは 結局 ほら 時間から 時間まで ぴったりでしょう。

ホレ ジュージョー ツカレトットギワ イズデモ ヤスンデ ホレ
ほら 自営業 疲れをとるときは いつでも 休んで ほら

サンジュップンシテ ヤスンデ アド ホンジ ノゴリ アドヤッペド

30分[仕事を]して 休んで あと それで 残り[を] 後やろうと

ホーユー スパンデ ヨンジューネンモ ゴジューネンモ キタガラ ソーユー
そういう スパンで 40年も 50年も 来たから そういう[のが]

カラダニ シミツイテッカラ トーシデ ヤッパシ ゴゼンチューイッパイ アド
体に 染みついているから 通しで やっぱり 午前中いっぱい あと

シルマカラ ユーガダ ゴジマデダ。 ソノ ×××× ツイテイゲネーダ。
昼間から 夕方 5時までだ。 その ×××× 着いて行けないんだ。

025A : フネガダノ バーイワヨ コノシゴド ホノ マー ホレ ナンチカンニ
船方の 場合は この仕事[を] その まあ ほら 何時間に

シテケロツテ ヤッチャバアイワヨ ワーットスンダヨナ。
してくださいって 言われた場合はよ わーっと[一気に]するんだよな。

コノシゴトガ オワッタアド ホンデ ジュージガンダガラ。
この仕事が 終わった後 そして 自由時間だから。

トゴロガドッコイ オガノ シゴドワ ツガー。 ナアー。
ところがどっこい 陸の 仕事は 違う。 なあ。

026B : オガノシゴド ズーット ナガク ヤッテルヒトノ シゴド ミット……
陸の仕事 ずーっと 長く やっている人の 仕事[を] 見ると……

027C : ユワレル。 イソガナイデ クダサイッテ。
言われる。 急がないで くださいって。

028B : ゼツタイニ イソガナイヨナ。 ゼツタイニ イソガナイ。
絶対に 急がないよな。 絶対に 急がない。

029C : イソイデ ヤルヒツヨー ナイデスカラッテ。
急いで やる必要 ないですからって。

030B : ホントニ ジブンノ ペースデ ヤッテンダヨナ。
本当に 自分の ペースで やってるんだよな。

031A : イッショニ シテット アダマサクンダ。
一緒に してると 頭にくるんだ。

032B : シダ。 オラ ナーニ コノヒト ナマゲデンノガド オモード。
そうだ。 俺 何 この人 怠けているのかと 思うよ。

033C : オレモ サイショ ホイズ ユワッ……。ホイズガ フズーナノ。
俺も 最初 それ 言われ……。それが 普通なの。

034B : フズーナ。
普通な。

035A : アンマリ イッショケンメ ヤンネデケロツテ ユワレル。
あんまり 一生懸命 やらないでくれって 言われる。

036C : ユワレル。
言われる。

037B : オラワ ホレ ガガッガダガダ ガダガダ ガダガダッテ ヤッペシタ。
俺は ほら ガガッガタガタ ガタガタ ガタガタって [一気に]やるでしょう。

038A : トグニ ジョセンナンカ ホレハ チメラッチッカラナー
特に 除染なんか それもう 決められてるからなあ

アノ ヨサンデモ ナンデモナ。
あの 予算でも なんでもな。

039B : シダガラ アダマサクットギ アンダ。
それだから 頭に来るとき あるんだ。

040A : アンマリ ハヤグ オワラッチャンデモ コマンダベ ヤドイヌシワ。
あんまり 早く 終わられても 困るんだろう 雇い主は。

041C : ソーソー ソーソー。
そうそう そうそう。

042A : ナー。
なあ。

043C : ホレ キカン アッカラ ソイツツァ アワセデヤッカラ。
ほら 期間[が] あるから それに 合わせてやるから。

044A : オガノ シタジワ シズガーニ ヤッテンダヨナ。 ナンダ コノヒト
陸の 人達は 静かに やってるんだよな。 なんだ この人

フザゲデンダガド オモード チガーndaヨ。 オガノ シゴドツチャ コーユーンダッ
テ。
ふざけてるのかと 思うと 違うんだよ。 陸の 仕事とは こういうんだっ
て。

045C : ゼッター インダガラ イソガネ。
絶対 だから 急がない。

046A : ゼッター イソガネナ。
絶対 急がないな。

047D : オラガダワ シゴド ハジマッタゴッタラ シューチューテジニ ヤッカラナー。
俺達は 仕事[が] 始まったら 集中的に やるからなあ。

ハヤグ オワッテ ヤスムベッテ カンガエダガラ ゼンゼン チガーndaナ。
早く 終わって 休もうって 考えだから 全然 違うんだな。

048B : ヨンジューネンモ ゴジューネンモ コーユーフナ アノ オヤガラ ヤッチッカラ
40 年も 50 年も こういうのはな あの 親から 言われてるから

ドーシテモ コイズワ ゼッター ヌゲネナ リョーシノ シタジラワナ。
どうしても これは 絶対に 抜けないな 漁師の 人達はな。

049A : カラダニ シミツイデッカラハ。
体に 染みついているからもう。

050B : ゼッター ダメダナ。
絶対 だめだな。

051A : ケッキョグ オガノヒトガ ヨツカンデ ヤットゴ フレワレワ
結局 陸の人が 4 時間で やるところを 我々は

シーチーシテ サットシテ ニチカンデ オワラセデ アトノニチカンワ
集中して さっとやって 2時間で 終わらせて 後の時間は

ヤスムベツテ ソーカンガエンダ フツー ワレワレ リョーシノバアイワ。
休もうって そう考えるんだ 普通 我々 漁師の場合は。

オガノシゴドワ コツカラ コゴマデワ オヒルマデ スンダゾツツーゴドデ
陸の仕事は ここから ここまでは お昼まで するんだぞっていうことで

ホレニ アワセデ ジガンサ アワセデ ホレ チョード オヒルニ オワリニスツカラ
それに 合わせて 時間に 合わせて ほら 丁度 お昼で 終わりにするから

ダガラ ソゴラヘンノ チガイガ ヤッパリ ドーシテモナ
だから そこらへんの 違いが やっぱり どうしてもな

カラダニ シミツイデツカラハ。
体に 染みついているからもう。

052D : コレワ ゼツタイ ナオンネモナ。 ナオンネ。 ゼツタイ ツケデーナ。
これは 絶対 直らないものな。 直らない。 絶対[を] 付けていいな。

053C : ンダナ。
そうだな。

054D : ナオンネナ。
直らないな。

055A : ワレワレ ウミサ イガンニツツーノワ タイヘンナゴドナンダナド オモツテルヨナ。
我々 海に 行けないっていうのは 大変なことなんだなと 思ってるよな。

056B : オガノヒトド ケッチョグ ンダラ オレ カイシャ ホレ イガネシ
陸の人と 結局 それなら 俺 会社 ほら 行かないし

オレ シゴド デキナクテ ホレ ターダイルド オナジダガラ ホレトオナジ
俺 仕事 できなくて ほら ただいと 同じだから それと同じ

イマ ジョーチャーダガラ ホントニ。

今[の] 状況だから 本当に。

一：言われてみないと気づかないですね。私たちはなんか時間が決まっててというのが普通の感じですけど。

057C：サイショッカラ ホーユンダド ホーユンダド オモーンダゲド ヤッパリ
最初から そういふんだと そういふんだと 思ふんだけど やっぱり

ナンジューネンツテ ヤッテキテッカラ ホイズ キューニ ホレ オガニ アガッテ
何十年と やってきているから それ 急に ほら 陸に 上がって

ヤッテケロ ツツツテモ ヤッパリ。
やってくれ って言っても やっぱり。

058B：チューガッコー ヤメデガラ スグ ウミサ ヌッタンダモノ。 ホット
中学校 卒業してから すぐ 海に[船に?] 乗ったんだもの。 そうすると

ナンボ ゴジューナンネンモ チカグモ ヌッテンダヨナ ズット ホノシゴド
どれだけ 50 何年も 近くも 乗っているんだよな ずっと その仕事

ズーット サンネンマエマデ ヤッテダンダガラ オレ。
ずっと 3 年前まで やってたんだから 俺。

コノ ツナミノ クルマエマデ。 ホノシゴド オンナジ マイニジ ズーット
この 津波の 来る前まで。 その仕事 同じ 毎日 ずっと

クリゲーシテ ヤッテタンダ。 ホレガナ……
繰り返して やってたんだ。 それがな……

059A：ジューニジニ オギッタンダガンナ。 ジューニジニ オギデ シゴド
12 時に 起きていたんだからな。 12 時に 起きて 仕事

シッタンダカラ。 アサナ。
してたんだから。 朝な。

060D：アサワ イチジ マズワ シュッコダガラ ミナト シュッコダガラ。
朝は 1 時 まずは 出航だから 港[から] 出航だから。

—：12時に起きるって夜の12時に。

061A：ソーソー ソーソー。
そうそう そうそう。

062B：オギデ……
起きて……

063C：ミナサンガ ネルコロニ モー オギデイグ。
皆さんが 寝るころに もう 起きて行く。

—：そうですね。

064A：ホッテ イチジ シッコーダナ。
そうして 1時 出航だな。

065C：ソー。
そう。

066A：イチジ シッコーデ。
1時 出航で。

067B：アト イチジ シュッコーッテ キマッテッカラハ。
あと 1時 出航って 決まってるから。

—：それで何時ぐらいまで。

068A：ホッテ シチジコロ。 ロクジハン……… ロクジカ シチジコロニ
そして 7時頃。 6時半…… 6時か 7時頃に

イッケー カエッテキテ ホッテ ゴハン サラット ゴハンクッテ コンド
一度 帰ってきて そして ご飯 さーっと ご飯食べて 今度

アミノ テイレオシテ ダイタイ オワンノガ ジュージガ ジューイチジコロナ。
網の 手入れをして 大体 終わるのが 10時か 11時頃な。

069D：ダーラ ハダラグジガンワ オガノジガント ソンナ

だから 働く時間は 陸の時間と そんなに

カワンナイノヨ。 タダ ホレ ジェージョーガ ツカワッチェッカ
変わらないのよ。 ただ ほら 自営業か [人に]使われているか

ワレワレワ ヨナガニ オギデ ホレ ダイタイ オヒルニ オワラッチ
我々は 夜中に 起きて ほら 大体 お昼に 終わることができて

ホーユー シゴドノ ナガレダガラ オガノシゴドワ アサノ
そういう 仕事の 流れだから 陸の仕事は 朝の

シチジハントガ ハチジッカラ ユーガダノ ケッチョグ ヨジハン
7時半とか 8時から 夕方の 結局 4時半
ゴジマデ ワレワレワ オヒルッカラ ダイタイハ ワーノ
5時まで 我々は お昼から 大体もう 自分の

ヤスミジガントガ ジュージガンダガラ ホレ ソゴントゴノ ブレナ
休み時間とか 自由時間だから ほら そのこのところの ずれな

ヨチカン ゴチカンノ ズレ ヤッパリ アノー ワレワレワ シミツイデッカラ
4時間 5時間の ずれ やっぱり あの 我々は 染みついているから

ホレハ。 ヨナガニ オギデダッテ オヒルニ オワッテ オヒルッカラ ダイタイ
それは。 夜中に 起きてたって お昼に 終わって お昼から 大体

マー ジュージカントガ ソーユーカンジニ シミゴンデッカラ ホノ ヨチカン
まあ 自由時間とか そういう感じに しみ込んでいるから その 4時間

ゴチカン ウシロサ ブレタノガ ウントヤッパリ タイヘンナンダ。
5時間 後ろに ずれたのが とてもやっぱり 大変なんだ。

070B : ジュージコロ オワッテ メシクッテ ヒルマダワナ アト タシカニ
10時頃 終わって ご飯食べて 昼間だ あと 確かに

ヒルネワ スルヨ。 ヒルネシネゴッタ モダネガラ。 イチチカンハント
昼寝は するよ。 昼寝しなかったら [体が]もたないから。 1時間半と

ニチカンワ ヒルネスル。 ホット コンド ヒルネ オワッタゴト ホレガラワ

2時間は 昼寝する。 そうすると 今度 昼寝[が] 終わったら それからは

ジュージガンダワナ。 ナンデモ ヨータシ アルガッチャガラ。
自由時間だな。 なんでも 用足し[に] 行けたから。

トゴロガ オガサ ツトメデイレバ ゼツタイ ジュージガンチャ ネーノヨナ。
ところが 陸に 勤めていたら 絶対 自由時間では ないのよな。

オレ アレニワ……
俺 あれには……

071D : ダッテ ホトンドダヨ ダッテ。
だって ほとんどだよ だって。

072B : ダッテ ハー イダクタッテ ハイシャサモ イガンニダ ホレ。
だって 歯[が] 痛くたって 歯医者にも 行けないんだ ほら。

073C : ヤスンデ イグシカナイ。
休んで 行くしかない。

074B : チョゴット ギンコーサ ヨー アルナンカ ユッタッテ イガンニダガラ ホレ。
ちょっと 銀行に 用事[が] あるなんて 言っただって 行けないんだから ほら。

マズ キツイド オモッタ。
まず きついと 思った。

075D : ホーシテ ミンナ ホレ フネモッテッペシヨ ヒトニ ツカワッチャッテユーゴド
そして みんな ほら 船[を]持ってるし 人に 使われたっていうことが

ネーノヨ。 ワガンネノヨナ。 ミンナ ジューギョーダガラ ホレ。 ワガタケダガラ。
ないのよ。 駄目なのよな。 みんな 自由業だから ほら。 自分だけだから。

ヒトニ ツカエタッテユーゴドワ ミンナ ハジメテダド オモーンダ。
人に 仕えたっていうことは みんな 初めてだと 思うんだ。

コノ オガノシゴドシテ。 イママデ ホンナキオグ ゼンゼン ネガッタノナ。
この 陸の仕事[を]して。 今まで そんな記憶 全然 なかったのな。

ヒトニ ツカワッチャッテ。 ホンダラ ヒトニ ツカエルッテゴドワ
人に 使われたって。 そうしたら 人に 仕えるってことは

キワ ツカーベシヨ ヒドイモンダドナ。
気は 遣うし ひどいものだよな。

076A : ジブンノ スギナヨーニ ヤランニガラナ
自分の 好きなように やれないからな。

077B : ゴジューネンカン ゴジューナンネンカッテ スギナヨーニ ヤッテタンダ。
50 年間 50 何年間って 好きなように やってたんだ。

ホイズ ヒトニ ツカエルッテゴドワ コンナニ ヒドイド ユメニ
それを 人に 仕えるってことは こんなに ひどいと 夢にも

オモワネガッタモンナ。 オモワネナ。 ツカワッチンダガラ ホレ。
思わなかったもんな。 思わないな。使われてるんだから ほら。

078A : ツカワッチルヒトラ ユーゴド キカネバ キューリョー モラーニンダ ショーネナ。
使われてる人達[は] 言うこと[を] 聞かないと 給料 貰えないんだ 仕方ないな。

イヤー コレ イジマンエン カセグッチャ タイヘンダナード オモッテンダ オレ。
いやー これ 1 万円 稼ぐって 大変だなと 思ってるんだ 俺。

ホントニ タイヘンダド オモッテンダ。
本当に 大変だと 思ってるんだ。

079B : モンク ヤンニンダガラ。
文句 言えないんだから。

080A : オガノヒト ホレナ ソーユー ズット サイショノ ソーユーxxxx
陸の人 ほら そういう ずっと 最初の そういうxxxx

アダリメダド オモーゲントモナ ワレワレ ショクジョーナ ツガーシ
当たり前だと 思うんだけどもな 我々[は] 職業な 違うし

ヤッパリ ソーユーカラダニ ナレデッカラナ。
やっぱり そういう体に 慣れているからな。

—：我々が逆に海に出るといわれたらそれは……………

081C：オガノヒトガ ウミサ イッタゴッチャ ゼツタイ ツトマンナイ。
陸の人が 海に 行ったら 絶対に 務まらない。

—：そうですね。

082D：ジエージョーッチャ アノ シマネーッテイエバ シマネーノヨ。
自営業って あの 暇[が]ないって言えば 暇[が]ないのよ。

ヤスミントギデモ ホレ イロンナ ホレ イロンナ シゴド シナクタナンネガラ。
休みのときでも ほら 色々な ほら 色々な 仕事[を]しなければならないから。

ダゲントモ ヤスミワ イズデモ ジューニ ツグラエンノヨ。 ダガラ ドンナ
だけど 休みは いつでも 自由に 作れるのよ。 だから どんな
ヨータシデモ キューニナッテモ ホレ ジブンノ ツゴーデ ヤスムノワ ジブンノ
用足しでも 急になっても ほら 自分の 都合で 休むのは 自分の

ジエーギョーダガラ デギツカラ ソノヘンノ リテンモ アルシナ。
自営業だから できるから その辺の 利点も あるしな。

083B：キラグダヨナ ジエーギョーワ。
気楽だよな 自営業は。

084D：ンダンゲント ヤッパリ ジエージョーッテ ホレ ジブンデ ヤッテ
だけど やっぱり 自営業って ほら 自分で やって

ジブンデナ ヤッパリ セーケータデデ ソーユーノ カセグンダガラ
自分でな やっぱり 生計立てて そういうの 稼ぐんだから

ソノヘンノ タイヘンサワ アッケントモナ。 ソーユー カラダ
その辺の 大変さは あるけどな。 そういう 体に

シミツイテツカラハー ンダガラ イマサラ ホガノシゴドニ ウズツテ
染みついているからもう だから 今更 他の仕事に 移って

シヨクギョー ヤッテデ ホレ ヤッパ ジガンニ セーゲンサッチ ヤッパ

職業 やってて ほら やっぱり 時間に 制限されて やっぱり

ハダラグツツーゴドワ ナガナガ ナレンノモ タイヘンダ。

働くっていうことは なかなか 慣れるのも 大変だ。

085B : タイヘンダ。

大変だ。

2014 年度文化庁委託事業報告書

被災地の小中学校における方言教育実践の構築

ー地域方言の継承に向けてー

〒960-1296 福島市金谷川 1
福島大学 人間発達文化学類 国語学研究室
Tel/Fax 024-548-8124
e-mail yhanzawa@educ.fukushima-u.ac.jp

印刷:2015 年 3 月 30 日

発行:2015 年 3 月 30 日
